宇治拾遺物語

四

宇治拾遺物語巻第十二目録

一 達磨見天竺僧行事
二 提婆が法門参菩提樹菩薩弥事
三 慈恵僧正延引受戒之日事
四 内記上人破法師陰陽師紙冠事
五 持経者敵寳効験事
六 空也上人聲明観音院僧正行尊事
七 増賀上人参三条の乃事

宇治拾遺物語・巻十二目録

八 聖徳太子正法一事
九 穀断聖不實露顕事
十 秀直少將歌代事
十一 樵夫小童隠題奇讀事
十二 ゑる忠信の讀事
十三 法ゝゆきうゝ乃事
十四 あはゞ人ゑの代事
十五 河原院ゝ融云霊伝事
十六 八条童孔子向答代事
十七 劇太尉事
十八 貪俗親佛性冨事
十九 宗行郎未射鹿事
廿 遣唐使子被食鹿事
廿一 或上達部中將之時逢百人事
廿二 陽成院妖物乃事
廿三 [illegible]

むかし天竺に一ちゃうあり僧坊なかりし達磨和
尚おのれに入る僧ども乃仏をうやまひ礼拝あり
或房には念仏し経をよみ法ぐよをおこなひ或
房には八九十ある老僧乃只二人ゐて碁をうちかは
を打仏をもおく経をもみず碁をのみ
他事なし達磨件房に出て彼乃僧にとふ答いそ
ぐ此老僧二人若しる碁をすかたをあり
はべる仏法乃名をぞよきぞ仏をあくみいや
しく交合をこのみ碁をうつ僧供を受
ずして食をかくしつ尚おのれとつくに尚おのれをきたへさる
僧ども

く圍碁をうちけるに、忽然と失ぬ。あやしくかなしきことを
つとめて入るに、僧いはく、なんぢらがごとにきこゆる
よ立る僧いはく、なんぢらがごとにきこゆる
僧うせぬ。これぞまことの碁の仙人なりけり。
碁乃ち仙事なりとうをぼえて證果乃上人よ
こそ、なほ、もとの碁人をとれ、もしんとれ行よ老僧
養いそく年来このおとこ乃ちの他事なし。碁黑
勝と絶て我煩悩勝ぬとかなしく白勝ぬとかなしく并
勝ぬと怪打よ隨て煩悩の黑を失ひ并の白
くんおを絶ぬ。ふこのもぐくよりて證果乃上人
なりけりとぞいふ。和尚房をぞ他僧よかりけれ

昔西天竺に彩樹并と申上人まします。智恵甚深也
又中天竺に提婆并と申上人竜樹乃ち名ありきよ
し。彩樹并西天竺の行向て門弟にさそはれて案内
をもとめんとし給ふ。ところに提婆并ある人行向て
ある人にてまし。酒をぞとめ提婆并ある人行向て
大師乃ち名ありくまりさしうをもとめて喰給
を見乃ぞて中天竺にうとまるくさいるとさりこれは
あべきよしの仰せ彩樹にや申給へれよ
ちを入ぬ。さて彩樹

さい[illegible]ものにて不思議なる事なり
見えくるしき事大に妨げなりとてまゐりて
まゐりて房中を掃きよめてつゝしみて侍ける
あなかしこ此度の経論とへ遠路よりきたる
ときなりけるに経文も痰つまらん喉咽さん事をやんと仰せられ
まこと乃人針をまいらせてさまよふに大師驚きたまひて
うやまひ給ひてとはしたまはれとかうして乃ちより
大師よりさればやまれば其の経文をあたへつる我
智恵ある小箱乃内のものなれば海万里を志の
きて来なん為をとらむへよとてものをあたへつるなりと
人々これ何事とありて針を求めて人々をこそ尊

まるもかりの智恵経論をくまんちゞの大海九廻を極ん
とありがたんちゞの年来随逐せれども此の経論を
むかしても宝珠をかの上人あるもじ光をさまざまにて
まうして経をたまはせ給ふ乃あまねくとしきと
やさしき人をもちて執の事を法をおろく法文をあつ
れ法のそれまれたく中てんちくよりわたりそまれ
きたるとかや

慈恵僧正良源（永観二年正月二日入滅七十三歳と江員外記）座主の時受戒行べき定日例乃ごとく催儲く在京の出仕をお待乃ところ途中にて俄に雨降へ共乃ものどもおくいりよと仰しかくゝ思もとる衆徒諸識人をめぐれ大事自乃さぐまるゝ事なるを障をなす紀よ延引せ先祖ゝ志うべさ事なるを障をなすなよ延引せ先祖ゝ志うべうしべと謗するまゝ諸出所孫まで

ものぐさまつり集て受戒をべきよ思ゝ家
と家よ横川小梁を使て今日乃受戒ハ延引
なり重事なる催に随て行べきなり市下

[illegible]ゆへをもつぐ[illegible]
ゆせとだうりの紙をつるぐとゝふあてまれ面へくをよ
くもつ紙をもぐ[illegible]れくまれ風退散しぬ[illegible]
に未乃時ぐりに大風吹て南門うえ[illegible]倒まこと
うれと死人くうれうちに[illegible]ありまゝと感ー
乃くもつをもり

内記上人発心といふ人ありもと乃公堅固乃人ありて
堂を造て塔をもつる家と乃苦根ありもて効を
せゝきもり材木紙ば播麻国乃ものくもられきと
もつに法師陰陽師紙冠をぬく被するをもて法
をもてあそそく馬ものりてもゝつとうりく

あるよりもぐゝ法師房ゞとくもし被ゝいありとゝふ法
しに紙冠をいもつるぐゝ房ゞとくもを被ゝ神達法し
紙をもい作へゞ被もるかどもをもくもくして作ありて
とゝふよ上人ものもをあもて大つよ作もて陰陽師よ
取くれゞ陰陽師加くゞゞ作天ゝて被をもくもく
ものもをいうよとゝふ被きする人をあきれてゆう
上人冠をもりて引房ぶりてあくをぐりあゝいに
もりて法房を佛才ゝとりて被ゝ神達ふくを
紙といれくゝ米乃ものもを房ぶりてもゞ水無
同地獄乃業をとゝはりもりて法ゞ被ゝ
和ゝ[illegible]

[illegible]
事をも理をもあり世れるごうあもしさうとて
くかりとうのちとく仕あうたくそけに見ぶ
てうは書ふをが爾あれうちいうちを續作
むうをかをれでよ人うもあうば法師のかうち
よ作をと俗人乃ちおとくあまをを作世れをいで
とかかーく作をどよれかくれりて作をばやう
よ作ひうといはよ人乃いふあううれてさをあれいで
と世め来のは着に冠をそ長絡不章に学人をば
くかあうれちとしおとくく堂法くらん料よ勧をて
あ法先をる拾ひをもをんちにあんをぶ一人并に勧

をしたし堂を造よ勝つをう功徳あうといれくをすくも
法法うをて材木をうんとて勧をてあり先うを地を
うれをとびしせてこ乃陰陽師よをを世法をてをう月
を京よと行よをりり
むう一院天皇殿冬嗣三位中将よおをて生をを記
をうをの病をわをくをうをづれ給をるが称名とをを而よ
叡賢とをの持経者あん童病をよく行落ーを
とや人をを生れをこ乃持経者よ行をんとて行作よ
荒見川乃ほどをてを爾うをう作ぬるいちを文
をれでをを生をうをあうを法爾ををーをて称
て称名よをを

なりといはれし［illegible］給ひしなりとかや。
ども其後上人をたづねんとてまうでんと思ふ所に
ひとりのわかき僧きたれり。さらば連て参らん
とて房の藪下をさして行けるに、あるじ
ちかき入路へとて、やまぶきの入行ぬる持経者沐浴
くとせられけるとありて相合ぬ。ちいさき僧の痩せたるが
はなはだしくも貴きなり。僧いふ、風をよく好む
此醫師のやうにあまだれく蒜を食しては有けれ
よからぬ事なりと、此庭に入いでゝいはれてさゝへて居たり。
法花経は浄不浄をきらはぬ経にて候。まかせ給へ
とよみてまゐらん。何条事かはあらんとて念珠を

押摺くるしく、へらとさまざまにはげしき気色のもし。
此頭よりを入て、気色ばかりまくりて、いかにさせやう
春量気を打おして、よくも思はぬ事なれども、さも
あるまじき事もあるとおもひ、いかにも思ひてたえ
ぬ高声にて誦しけるに、あまり大事なれども、持経者肩
よりて大きなる汗をたらたらとしながら、なほもよく
おしえたる御経をさましく、あはれ也ければとて、さやうに語り
はべりしを、行ぬ者は後世まで覚えずなり
行ぬるまでよみける。有験の名は世にもかくれな
きものとり
むかし空也上人［illegible］条大［illegible］

さいりとして茶人所しよりく[illegible]長崎の僧正
金子給ひるるを肌どし給ひなどに僧正の給ふ
臂いりめして打行へふうさと人のいそく我
して幼か乃付斤を取て投げ[illegible]などに打て行
そそ中メ行し幼ちれ[illegible]乃おとあれむかひ行らば
かしおく左りて行るれ打行るまうぐとらふ
僧正の行てこそ貴きと人うてかえ天皇れ
子とそて人をやせいとかうでをかしれ臂まそに
打ちしかさんをめよと人云ひ恨行へ寶に貴
行ちんこ乃加打し給へとて近く寄まへ殿中れへく
湊くおまえ我を流ろ乃ろき僧正頂ちり馬をあり

いうてかれし行よたもだくあつまてまがれる
しまくとあとて乃ぶぬ別れ乃臂れなくに乃ぶ
と人涙をかうしてこな礼物を見人れの先き
感し或いあきれ其の目と人苦ろよりかき座と
人具し去ると一人い縄をとりあ行ける座ろ
よ落るあるき縄をひ行ひく壁つたろ人
て古堂乃屋あまに去る藤を塗事を流一人ハ
仏乃皮をとあ流先へくあにあられく獄れよ
あへきと一人い反古乃落葉くるを引ろ行ろ
めて紙ようすきて絵をとろ中去てまつるへ
反古乃屋を臂面あ[illegible]僧正よ

つとまれば、よ紙ちがひ、中ふ歩のしてたかけと
おぼを行あつめがてらりけふをあり
むり〳〵多武峯に僧賀上人とて貴き聖ハ
きゐときこえめて仏武うきびしく加てをるとびさへ
よ名利をいとはれてく頗拙くるもてくなんとをある
まれ行きうこ条大きさの文尾よあ〳〵せ行さん
さて戒師乃者先よりめ〳〵につてさを生れがりつ
さをもあう生死をとあり僧賀こそまことをお
〳〵者てまつる先生てさいつをきり才あどをこれは
つうれを嘆く打者をまれるんやさんぜ〳〵とあい
ふよ行りれ乃わうにを後屋すくさいつをを生（む

あつをかくきをにわりれあつりかくて家にさいり
者を家ようを希望びう後こびく先〳〵入行れく
尾よあり法よよ上座ア僧ごを物ものくさいつを
あはまり内東ようを法うれあどさいり者る
よこ乃上人を月ハ物者ろ弁ゐるう弁を貴
をあうをうをうをけよあんれそ〳〵者るさて法
まへよりり〳〵遊てれを帳乃ををてまつをて出
家乃をわうをくめて者くを出れ鬚をあき
かりてこ乃上人よををを法せ〳〵家れ法簾中に入家
遊奥をくあくをを法ぎりあり〳〵ををみをてこて
あんとすを乃者先上

しをあれうちよりはやとなりて何事ぞかしらずこれ
もてはやすあきなひ物なりあるうちとおもうてはやうせるう
人乃ちよりたかくよりはいへどもいまは絶りきぬ乃ちに
しくとあり是ものをといひて所詮内ちう
くいの女房ちうちのたまへる郷殿と人僧ちうこまはせよ
よあさまのく月ちうちうとてかびゆゑ乃ちにかちを
さうあり貴さをもとれうせてをのく身ちうとあせあ
へくうをもうあしぬ乃ちにさてと人さかうなん
さて他りきあさせてそ他りうちうとて風をもく必
きくいまさせてそ痢病のこたうまうまはいさいる所ぐくい
たる我りとぐとめしいつきてそ拭ちくいつる遠ちくあり

ていへどいつそぎ海ちうるとおいるあり乃ちとていてさ海ちう西臺
乃ちちのこたにたいあるく庭をかくをて嫁乃口ちうあを
つぶれ御ちうよりちうちうにたまちるく泉寺のぎりなす
にあまできこゆとかき殿と人りちうの乃ちちる寺
かびをてし僧さちうちはあたをのぐうれを先ちうを
寺と衛門ちうちるとかあうにあとにあをてをのちうれ
ちうとぐとぬるまんれをれどうれちうまくを貴きかか
をちいつちくあちうちうちう
むちう東大るにと庭にたにいつちぐをれしき
あちうをちうたにゆぐちうもちうとちうある事にて
をぐ慳貪ちいつちをれちうちうをれ物ちうれ僧

正乃くとあき徳りて、[illegible]
しむ罷乃あさの[illegible]
を[illegible]り法房何事[illegible]
れんと[illegible]れば上座鬼猛拍あらげ[illegible]
員[illegible]僧供[illegible]
中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一条大路を大宮[illegible]
座寶[illegible]

[illegible]乃法[illegible]大衆[illegible]下部[illegible]大僧供[illegible]
むと[illegible]中[illegible]
[illegible]座寶大衆[illegible]
[illegible]
一条富小路[illegible]
大衆[illegible]
[illegible]
何事[illegible]
牝牛[illegible]
きて牛[illegible]
[illegible]東大寺乃座宝[illegible]

どもをあくいんをうつしたまひしかば祭りはあまた坂殿より
ふくはあまたあるぶたて大衆をのくるひとりてたまひ
よ大僧供ゑうせさうまるこの事は門きまつ先
して座寶ハうちゐ所をもてく人をみちをくるもの
にてあるをもれいまの世にいそのあ御貴人ありを
むとてゆかりて僧ゆかりてなりあぎさせたまへば
つよ乃醍醐もまた乃僧ゆえ建立あり
むつ御さうくをとなふ上人ありきもとゆくをぬ
ちて年来にありぬ門きまつ先して神泉にあ
う先をくをたをに貴を給ふ乃ゑをれを合ける物
ふうれをゑ乃ゑ伝建あつまるとてこの座乃ゑんと

くゆむじりて又ゑ乃にいとをうゑをにをゆをこそ穀
新いく年年にあうゆとをれあをゆゑより年ち
ゆをゆ天十餘年にまゆりゆるをぬといををゑく
一人の殿上人のいをく穀獄乃屋をいうゆ
あるをん例の人りはゆをうををんいそゆてをん
をゆ人ゆ二三人ゆをまそゆてをれゆ穀屋をゆく
病をきをうあゆ乃ーとゆをくを上人のゆをるれまに
ゆををるをゆををんといをゆををみれゆ殺引あを
くをれゆ大城をゆゆをつゆて布袋に来城へく
をきをうゆ伝建ん穀獄屋へく
ををゆをりて乃をゆ

きるにそうのちいゆめざるべしこれあるこうせよ
ありとなん
今きむし秦は直かねとて人あり者病つき
くのちをしをとこをとて内にさいうをとけり
忠辨乃掃部助とて義人ありきるにのちをあるを
のちうのちまくをもをくをもをくのを孫どもか
をてなくてまつりのつるはをもうを孫どもの
のををあるをてくうにまくさいるとのをくん
やをせのをくをてさいのの如ぬこ日ぞうあるをてかる
乃ををうの
ををのくをのちにあをもひとちをるをある

きをのををうとつをまーをのを
をてうのをうをにきるをあをれるのををうをあり
今をむーのうの郡のつぐく奥をを増のきるの門乃
のちうをををををををををくくくををうをれ
きるにのをうの童れあのきをのをれのをるにの
のちうををををををををにのををのををのをの
をんのををををををのをををををををををの
をあのをのをををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを

[illegible]
いまのはむかしそうもしかりをずて
うきふ幸なるとけうの後乃夜晝まゆんあるうりみくれと
かるびし物あんきうとけるゆ雪乃ひうびくぬるの日ゆう
そうもんかうしうある雪うれとゆくちのさみうれ
ゆを歌りて仕べきうびうしゃせくびうひるうう城
うゆんといつよびとうあくあるふ[illegible]ゆくびてうん
あく
さうひなるれうとうまるあくゆゆきうて
ううそうへうもきあくせざうとまり
とうんきれびくいうびくゆんうくゆうけるきあを

ぬがそううゆかの方をあるまりてうもいうの衣れい
そびうあもうきゆくせうりゆそうにあうくせ
うてかいうくみくうれうゆくうれうあるよ
けうれびあるあううれうれうびうあくあや
びうそうれうきるゆうあくとゆうてあうゆかうきう
そうこの後うれゆううびきれびあるゆかうて
うんうびゆ孫うせきれびあるゆかうあり
あうゆ我うへゆうてこの乃あうるゆ城二あびうう
きうていれきるあうう光ゆるゆれ不幸と
しきれくうゆうこの生れ事ハあくあるゆ所に
いゆうゆ生ゆうゆうあうてゆかびうて城ゆよいゆう

あるんと思ひ給まと云乃師の云るべき物乃ひとつ
いまだ生ざりしつるにかの人のぬるまれと行きれた
かぎりあるくらまてくも思ふるまとを布施よさう
生涯あり生て法師となりてもの勝
ろうてなくくいれまを道だ能いまうまとがうて
法師よりあてまるまざしうることまつゆくかをとあく
くうせにまうあうあるもまこ此姿よまるふう
いまいむりあ貴くうたたまにうてまうてまて
きるるべに仕まて乃年七八まうれまの乃年も
いまだかりまれあまとかぎりあくうあうまきる
ごとあくうまうれうくうせにまを道にあきまどれく

なまれ法くむかりかもにてかるまるに月法なあり
ぬまでかくてのまあるべきまとかまうあんとれ
まふよちご乃あうまてあにとあるうまやれと行も
れかまていまをまうかうまれまで拾るかき
法をける
えんやこへとかまふりつまてかりきまを
うぬへのあまあまとりまると
とかまつをまるまけける奇あんいまでるける
いまをまむりあげまうごのうまうまう乃ま
よえまをるがうまを法をみく
あれてうまやむりあ乃ま屋庭に大乃法きく

こんもさもみしくるふう
あげさん人乃ゐうにようまんそて寅之ゆきゝ
うんさうをけるさうう
今ハむかし河原院之融乃左大臣家るうみち
乃之の之ゐゞまれかゝ琴ぼうてうしかばくみ
うせくゝ之ゐを乃せ乃ゞさ海くの行ゝきをと
ぼうてもみ行きる可くうせて乃ち之うゐ院
うはきてきつうきるあう延喜御門さびく行幸
をきるとまゝ院せうゐまれあるかうう
夜中ゞうるに西対乃塗籠をあきてうよめ
きて人のさいるゐうにかゞさ寅きれゞ入せ法へ

さゝゐ乃袋東うゐ之くゝる人乃さちゝ之乃
をるうて二間ゞうれきてかゝうてなうあまこい
さと我ゝゞゝ之せ法へさゝれぬゝにいる歌ありとや
融乃ゐゝかゝゝ孫行へゞゝるにいとやすゞえ
なんゞと作ゝゐまゞゞ家ゐまいさみいよかゝう
ますうかゝゞゝゐくゐをくいゐうゝゞ仕へうに
とやせゞゞうまはいとゝゝゐと乃ゝ中ゝう故
かゝくれゐ孫乃ゝれうせされゞ他にてあれ
ゝうをゝうゝてかゝゝゞてあゝ光礼をゝう
ゞにうにかくゝうゝむるゞと中うゐなて作ゝれに
ゞうへをゝ河乃うにうせぬうれかうゝ乃へゝ作

洛陽にいたりてまづ孔子のあり給ふ所を問ひ給ふに道にあきびとの
孔子のくに道をさしてこれなんいにしへの聖人にましますといひて
今ぞ見むとて洛陽に孔子のみちをとり給ふ
ゆくに八だうりのすぎあれぬ孔子にたづねまゐらせ給ふ日
乃入谷と洛陽とつづきたる所にて孔子のいへ入給ふ
給ふ日乃つるぎ所にて洛陽にもちあり給ふ
やうやう日乃出入給ふ所にまゐりたまふ
ぜ日乃つるぎ所にて洛陽にまゐりたまふ
とや申さむ孔子申し給ふ童あり
孔子のもとにはかく物をいとくに流入給ふ

かく流入給ふにてこそ孔子をば
わらはねるをまとぶらひ給ふ
ゆくもむかし新なる者ども
よ木をうゑて物をかき給ふ
たうをぬぐ
ゆくに弱るはもれんの
流れ川なるはまこと
ぬきもきれぬぜあり
くもきれなどにうせ
く大ぬよりて先
とそいひ給ふ

かの者を鄭大尉

まなむしてを後ちの乃命をこに一人乃ぼこ
あり家貧しくして宝なし書よ後年なま
よちうなりをとこもまどしう侍りけるなく
く年月を始かりしもびとくあるに僧よあれく
世あり後うへまちと後そふ智恵ある僧よく
むかりあるを海世とくをまんとまそくそ海
ことの仏をはとまへしさらはまもゆうに後世と
うきとうよむまひんといふこ乃をまこ
とのまて後をはいぐとくに僧乃いくまいとの
仏をはこれとてのいかをのおとよあるもを仏法を信
まをありとてのよむまことをいくをくいうを

に候ようまをなまりてをあるこをあるこ二あく信と
あり世のこやさんうをまるへしとへ僧の日をまるへ
まを佛あり函仏をとを仏をて仏あり仏と称仏の
かう仏をまをありとへだ仏我仏の
おりこをてうまをるとこ乃おと後仏よりをてあるく
思をれた梵天諸天をまをりて海をう行をれだう
らさるに家出をて家のうちゆうよりぬ命と
をるにてのく仏佛と会し入く浄土よをみ仏に
さうとてをうとこ乃おと後やをるを人をとみあこ
れををるとなん
つまはむり壹波る家ろう郎おをとうをかをこと

よりあつて、ものの乃さんたちをまねむおあぶのうて
ゆきて新発田へ行くとて、かくまつて、かくまつて、かくまつて
ぶ新発乃さんといとやとろ乃いとぶうろうさん
ぶあるむとぐとくへいとろれこうにへくんとろ姫
といふこの男とふ虎いいつ川たろうあるぞと言く一
あるぶあそうていでたくく人とろうれく逃ていまく
もるなりといふとをきてこの男いいふ虎うあ乃
虎よ合て一矢を射くたれでやとろあちくきく
とうもよしてたれめ平ぐむあーういてくろうさ
きむけふ虎の人を無乃乃ふ法きよしてふあもていい
きる我人きてふれちにかくれ事をとて公ふ長人

やせといれきれぐかあきあ事ふれよべといへむ人き
てめあるとといへむぐさうぬまとうやこ乃そらの
人をふを風をく射んとそやあうとそれきれば
ちうやいぬとおきふ寄いでめ家あを我むやぐと
そへむこの乃男れや風こ乃ふれ人を家所をびまく
そして龍を言きんとふくまいおぶ法きてやう
乃者を北勲ふどうはとろ所れ換ぐろまぬべそれ
いまかりあそねよそいめまを目本れ人もいろはを家
所をびあきよなてまかりあへぐよ死ふとそいい
我り弓矢よ平つきろん物ふよーかも我所をもろん
ふとへいれんとやきを守とそそろ我ぐかやろ法射と

殺してんやといひければ我身のいきいかずはしらずかならずか
れをば射とり侍なんと申せばいといみじうか
しこき事かなさらばかならずかまへて射よいみ
じきよろこびせんといへばをのこ申やうさてもいづく
に候ぞ人をばいかやうにてくひ侍るぞと申せば守の
いふやういかなるおりにかあるらんこふの中に入きて人
ひとりをかしらをくひてかたにうちかけてさるなりと
この男申やうさてもいかにしてかくらひ侍るとゝへば人の
いふやう虎はまづ人をくらはんとてはねこのねずみを
うかゞふやうにひれふしてしばしばかりありて大口を
あきてとびかゝりかしらをくひてかたにうちかけてはしり

さるといふとてもかくてもさばれ一矢射てこそく
らはれ侍らめその虎のあり所をしへよと
いへばこれより西に卅四町のきてをの畠ありそれ
になんふすなる人おぢてあへてそのわたりにゆか
ずといふおのれたゞしり侍らずともそなたをさし
てまかりなんといひて調度おひていぬ新羅の人々日本
の人ははかなし虎にくはれなんとあつまりてそし
りけりかくてこの男はとらのありどころきゝて行てみれ
ばまことに畠はるばるとおひわたりたりをのたけ
四尺ばかりなりその中をわけゆきて見ればまこと
にとらふしたりとがり矢をはげてかたひざを

さてくるゆう。そこ人の毒ぐすりぬりて法いひらがうて
移こ乃ぬぐみうめ。ぐ姫屋うてある城かの乃こ矢を
さぐそてをもせで力こ迫でそこ大口城あきこく
かぐ屋てをあこれうへよかう氣をかのこちを法ようこれ
きてうへよかう氣かり屋て矢城こかち出迫ぐ
をとかこの乃こてこうをかこに七八寸ぐらいとかり矢を
附かしこ法こうこうさ法よ命てをこれくあぐ城
かうまこをつこれこうこ脇をつ氣二度あぐこ矢よ射月
こく法かよか法して矢をぬてお府よかりこく
守よかこく射こうの乃こ法るよいつよ守かんぐ乃
ぐうてかこうこ乃人をぐてこうこ乃こうへ行てこれぐ

まよかこうよ筆こかぐこうを射をこれこうこ人氣
いこうぐまかこ百千のこうかこうてかはも
日本乃人十人ぐこうこ馬うてをむこれこく射ぐこう
おこりこぐ城こうこんこ乃氣人を一矢ぐこうの矢よ
きこう乃屋こうこる矢こうをすぐてこれよ毒をぬ
こてこ迫ぐ法弁こうはこうこ乃こぐくのゆへよ法ぬれぐも
こうこうまこうよこう乃屋よ射かこをこへをこ屋ぐ
日本人へ我命下死あんをを屋ぐ乃こ毒天潮
矢こてこ迫ぐこうこれ屋よいこうこ法をと兵の
乃を日本乃人よへあこうへをもあこ法ぐれぐい
よくこを迫ぐこうこうこ法こをかぐゆこる氣こうこて

かぢをもるとさてこゝろをのとゞまるをかしとそ
をくつさえらをれど書ゐをもしるくはくしにて
て宗彩ゝをそたりをくろれより殺ろうをれ
自分乃かをてかろ出るものあり是て動者も
ゆるして帯りおかりくろ乃もの是猿より是ろうける
宗彩ゝをもろろをもてお海くれ商人を新発乃人の
ゝをを彩てかろりをれで彩をゝにをこの気人
お兵をゝろで彩を彩のにゞしをるとろ

遣唐使

ゝまハむゝ遣唐使ゝをろもゝにをろける人
乃ナえろ乳気をの彩を是てあるまゞかりをれば
ゞゝてをろぬゞをてをるゞにて雪れゝを

かたく帯りをとけるを日ありきもせでおろけるに
ちゞ乃あるゞよ出るくいねるゞをくゝろをれゞあゝし
とれもいくゞそ是をまゞあ如ゞし彩乃ゝあゝ
帯を彩をるにろ出くゝ大を気大乃是ゝあゝて
ろをゝろを代ちゞ乃あゝかゝゞ山さはゝゆをゝ
気彩をゝを出ハ虎のくゝいをけるゞあゝとゝよ
せんゝあくかをのゝをゝて太刀をぬをて是ゞ彩ゞ
彩くゝ山乃ゝよ彩てゝれゞ岩屋乃ゝにゝのゝを
食出彩して服を彩ゞて帯をゝ太刀ををゝく
ゝゝをゝれを是ゝをゝいゞかれゞはゝてゝを
をを刀ゝて彩をゝてゞ難乃ゝゝをゝを気乃ゝにれ

ねつきよまろうぞさぬよくたんとてくつとよ
せおうぬうてぜぜ柳とうちきるてかぐぐと色
川さてよ鉄で死ぞれぞもヨ犯よりれさきて家に
ろり出れぞそのぞれ人くんくおぢあざむたとかぎ
ぞあ〜ぞろちろ乃人さ虎よあれく逃れまぐぬ
よかきよかくとろちをがちあ鉄してよ鉄とりく
してきれぞれぞとろうれ人そいぞぐ犯まにいてをを
日本乃ぞよは無乃ろこあ〜び肌きぞありと先で
きをぞよ死れぞなろくのはさん

北

今もむり〜上遊アれまさ中将とゃきる内へさいり
紙人乃よ法師をとをくをかていきけるとおくるた

法師うとをくせきれをそ法師ぞれていりる鉄て
鉄〜ていをのありるとりいれいまるぞに鬼をを犯きき
ちるれよをて仏ぞきをきけるをのれとなたと
あくうちつれくきを鉄きるたて乃法師あるまれ
肌乃周乃ゆちくあ〜をれ乃してあ〜兄あをたりけ
きいよ〜けきをとを犯をいれくきを乃れとをうをく
思居をく思法れきるたまを鉄て男をかく先てきけ乃
よちくんけよちをと主ろ乃拍ろとりばまてをれを
を人ぞれ乃あをれ入〜を思ていつる切をこいりをて強
つをぬきをこれをとをくをくはるるけうをいれきれて
別乃ちをとをけきものにをそろれをくをくるる人を

見つけられてあらはれゆきて帰り行かんとするに
たゞ人乃ゝ如くにあらねば
あるべきかとて
そこにとゞまりて
行きもせず
あく大数乃あつまりたるを
月あかくつゝあるに
おとしきるをこの中ねりよめて
おとこにもつかはしける
うしろめたくいかにもいかゞ
まよひにくいかにもいかゞ

なるもれきゝけるとかくこそあるらんなるに山乃ゝ
なりしきとこそ
地をさはかくはたらく
人をかくさはさするやうにきゝ
いとあつてゝ
あるうちにもむかしをこそ
きれた
なるかとてゝ
あるよりかくさはかるゝ
よ山乃ゝ
なるもれきゝけるとかくこそあるらんなるに山乃ゝ
なりしきとこそ
地をさはかくはたらく
人をかくさはさするやうにきゝ
いとあつてゝ
あるうちにもむかしをこそ
きれた
なるかとてゝ
あるよりかくさはかるゝ
よ山乃ゝ

あるかぎりの御ぐしをまことにまことにこのぞ
みをもすてはてんとはおぼしたれどいとあは
かなるものかなるやうにもあらぬ物思ひに
らされくるまゝにいよ〳〵ものもおぼえず
きてゐたるに夜しくなりぬれば人をのぞいて
月のさやけさにたへがたくなりぬるを
きて世をうきものとおもひくれはてぬ
ぬるよりほかのことはなくおぼしとりはて
何さまに世間のことをもかくれなくつきせぬ
思ひのなぐさめにもなりぬべきことにあり
ちさまよきとさとりをもつきせぬるかとたのも

つまはかなかりけるなりけりとてせていつ
きもとうとくてとりもちさしてせいつ殿をはや
はたんもとうむとおもひたるにくゝ
ちもとさしてせいつるなりとてうれしくこの
やうにてさいはひなるものとおもひたるこの
とあるこゝろはかとくまそくうれしきの
行くすゑのことはかりにてあれはさもしかと人よりは
ものをはなるまりの空をかすかに海を
ゆくん

今はむかし陽成院のおりのみかどにて乃ちの所に大宮
ちもとにはの西洞院にあるとはかりあつまれるはかりの

東ゝてけんあるとはけるえ風る池乃あるとはけ
よ中義れをの稱ゝ乃をを八夜中をゝるとにゝをく
とあるゝよゝてこ乃ゝをゝゝをゝゝをゝとくゝけで
をゝゝ宮をむゝゝとゝにゝをゝゝゝをゝゝゝをゝゝゝゝゝゝ
ゝゝて流ゝを芋ゝゝ宮ゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝをむゝゝ信ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ稱ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

池乃うへをとびまはるにかきんとも仰すとおほせに
あみのきぬに綿あつくしよく射かけられぬよこ
もへして池へおち入ぬ地あかりてそのちくにつき
く火をともしてめくりみれは中にいと大なる
むさゝひ乃年ふり毛なともなきかしけゐるにて
そ侍りける

いまはむかし一条桟敷屋にある男とまりてけい
せいとふしたりけるに夜中はかりに風吹雨ふり
てすさましかりけるに大路に諸行無常と詠し
てすくる者ありなにものならんと思ひてしとみを
すこしおしあけてみけれは長は軒とひとしくて馬乃
かしらなる鬼なりけりおそろしさにしとみをかけて
おくのかたへ入たれは此鬼格子おしあけてかほ
をさし入てよく〳〵御らんしつる〳〵と申けれは
太刀をぬきて入らはきらんとかまへて女をは
そはにおきて待けるによく〳〵御らんせよといひて
いにけり百鬼夜行にてあるやらんとおそろし
かりけるそれより一条乃桟敷屋にはまたもとま
らさりけるとなん

宇治拾遺物語巻第十三目録

一 上緒主得金事
二 元輔落ル事
三 俊宣迷神にあふ事
四 かゑ人買てもれる事
五 美濃買人乃事
六 大井光遠妹強力ル事
七 或唐人女ぬすびにむまれる事

八 出雲ヶ別当九郎と嫁ヶ婚ヶ事
九 念仏僧魔性生事
十 慈覚大師入纐纈城事
十一 汝天僧入冥土事
十二 寒貼上人死鉢事
十三 法然川聖乃事
十四 優婆姫多子ヶ事

今ハむかし。長尾佐ヶ[illegible]ヶ人ありけるを冠乃あをを
れおりづつと申もてゝ者の人あををもの[illegible]せん
法を[illegible]ヶ西乃八条と京極とヶ島の中ヶあや
し乃小家ありけれまゝを行なゝて夕ぞもち乃
[illegible]れゝこの家にてるるもとりていつぬれて女
[illegible]ありける法引入くゝ夕を[illegible]ぞ
[illegible]家小幸横乃屋[illegible]ヶ石のある[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

とりあえずひろめれば、女乃ひとり居うかの乃石にかの俗
らんむしゝちもとかゝて行るひとり。昔出雲の国の
むかりきるこの国の人倉ごもれあしくかくいたりと。
織よまれて大ちるの国もとの乃石ごもあり。さしうの
魔のをそせ行へる石いろれ倉のあとはたてきてつて
海とそう海かりる乃に出乃ちてそうり堀わさまて俗ろ
うまがかく魔乃うちに行まだうきのきんと思行まと
ど女たちあしくよそ乃ものべきと居うもひまきれた
ふくむくかくてを知く行るひとりとしへをまだ
きれこのつ者とてんはよ同くせあるものもでえ
ほくふとれたれくあよつふ居うこの石我者とた

ようとつれをれでよりかの乃事に行りとしれきれでかの
居んよもうをそ十人をもれ車をかりに居りて行えん
くそんとをもかどに綿をぬきて者ごにたくんが
一を乃まつきれでこ乃ものよとくせ行分ををてさ
たくまぶふこ乃石を女をもてようれ拍とおれれ
ぶをもを家りよをてはきて行うべき居れあるうりれ
だ者ごにたくんをこ者ものをれでかく衣袋をする
ものとへでかれの者ぬをるりぬようの石のそう
よつうきをかつ乃をんうのをこ乃つうぎ行らん拍
をくあれかう袋しとしへくきれあるにりきてかゝむ
をて車にりを乃をて乃ものてうちかきくうをて

物ども、とりよせ、米銭絹綾あまたこれうりあきなく
わかび出さしに紀伊人よりあるいはまたは乗りハ
ゆ宮高門ちりの人人もまぬうきこれゆゑくらし
京一町ばかりうきあるうちこと買ものあれとせ
ぐと行れしく出でもうれぬ人ようきう
あれど畠にも法ちうあまり京出つまり盛
ものけきあると思ふよあくふいきうしてもうんとふ人
をひとしきもの紀をのとかまれくうと川あきうのぬ
しこのうきをあれうりて津乃出よりぬ紀伊あさう
ぐろもきて雑波ものもこれいぬ酒粥あとかりくはう
きて煙のかりうまうきをちりふ人をまぬ

あてこの酒粥ものをいれくうのうたのあれこ
もあるぐ出さこせもとこれ市まびまるあるぐくあはまり
てこの米十米二三十米ばかりてとはかれぬどくこ
ものかうもれぐ山のぶ米十被ばりたつを京
へのうる酒かりをはうきもれぐの法ちまたこの上人
ぎもよ出ぐはつもぐれ法れでれきとこれもれば
この酒をのこはく緒よをうくいをとく宮河尻り
引つを法ろうきたりて車備よ物をとうせはくうぬあ
まてこのうきたりてて下人どもをあとれくれうれ人よ
はちこねうきて家をたちもふまくたはかうてきう南
乃町さ大納言源貞とこれきる人の家わけ町八代

あまたのぬしたちなどはたうけるかぎりなれど
此さくらの大納言のうれしうとて二町ばかりなる道
をもとうれいたゆるみちの西家ひがしかくして女房の
ありきもえかねたりてうれをかるもいとしてあり
ぬべきを

今はむかしの弟たちなどはなほかたはらにて
祭の使しるるに一条大路にてうちとけるほどに殿
上人の車おほくあつまりてあをうまのこまかどに
おりつどひたるに人をおろしてうまをいかせて
あるをりもれてうちぬる年老たるをみて
をとさうさはりてはうちぬる遊あれいらでとえるをだに

さくらをたきものにしてあるべかりぬべきをたりをとこどもとかく
あり年ごろはとおぼしきをかづきをるをんなどもうちとけ
はるるをれくまもなくおりたちてあんありけ
まどうはさはよかりてあれさまがしたりてたせさす
しよきことゆべきまあり殿上人どもの車もおりあつ
まりて遊
きこしめしはしたりさるにたりくとしていらでうち
ぐうしたはるの中にもれ年ばかりてはるれのちるをか
ぎりなきあり車ぞれのごめもうもれくしはる
一乃車のかくさはるよあゆとうるとていはるる遊
このるうりかうてかりかりしをるをどかりとひと
をたれもれはかりしの思れはまぐうれゆへをかをせ

ある人そしたもはよはまづきさそとそるもとそ
はぬのことあり。まして馬はあるものにあらば
あの大路もいまだうたぬうちをとうられ
をあゆまんといかまつくめるあのまれどそはきかう
引うるをえうをせたをれんとは馬をあるとかもべ
きよあらばうら鞍をしきかるあづこのかくうづく
もはかしずそれるはくはすづをえかちぬうれ
日後うらばまくうのかるあとそ和してのもの
よあらばみをとうくかを入めあるよとくらるをの
ありうれるをんいうせとうれば乞るはなしされ
ばかうんあとうあうむづきあるうれ例おさて

あらばかのかくぶは大覺寺乃法橋よりかたいに
納云そうれとそのの行幸にお河くうのおとく例を
かんぐへあるべうくらばおうれば案内をおり給へぬ
こうのこ後の日あきを君遊ようれをまふべきにあら
むばうこれをまくかとかるへしとそ法ふ
おとにはよ後かりかばかりへくいれきうにかくのおを
をいれをてかりをくおとうれをあんとうとて
さ一入をあうれ時よとよみてはうむのしる
おとかぎりをかなりうせすとそるをそれ
のいくくかうら後をれたちうををそまつて
かとかくうのひなしおとい作うあうばとうれをれ

たれかとはいはれうかくて石程をいはきりせくゆくさそ
はくてはくるまをはしらせさるゆくさにたちも
さかはきを君遊ハあくてはしらるるんをの殘屋とそ
いはれをあくんはしらるるんをの殘屋とそ
あり重ねて

二

いまはむかし三条院の八幡の行幸に左京藏人
なりける人をめしぐしたまへりけるに佐右
ゑもんのかみ乃ぶつ所にまいりたりけ
るに人どもの出でたりけるに神あんけるを見
てかくいひけるこのぬしさぶらへといひけ
れどもこたへもせでやうやうさがしたりけ
るにもとのぬしはいまぬぎたりけるのを
見つけてとりてかくなんとかたりけ
ればこれをきゝてゆきてとりてかくなん
又ゆきてかくなんとかたりけれどこたへ
又ゆきてかつら河をまゐりけるに

三

なりぬるをりにきこえけれど人をもとりあへずもりぬ
さきたちのまへをゆくに
ゆきあひたりけるに
ゆきあひたりけるに
て法とをくなんとかたりけ
とゆくべきにてゆきあひたりけ
きよはるのぶとき
条の猪うり
かしてきるをりに
まりきるものの
むかし大江の人
をゆくに大きなる河のあるを乃ぶ

あるとあのうる銭人間ばかりかゝれをさしつゞ
しやう銭とち出さるる人あり其の者をば伊の
国うぢ人むさ殿にて物よをんざるといふ乃ち先
かもんといへるこの銭人いとくいとうきさいを以乃事
あるとてまうを出るかめおれだいみじきあるいるりた
うふまじ此より銭つゝ人をおれあれどちよりよ銭をうて
こ乃ゆ十貫文銭にておめをとれとりてこれちに公よ
おもよ屋う親乃をかゝ貫よをうれ西人屋うつる銭を
かゝんより人こく屋をねをばかやいうよをゝ出ちをんをもむ
まうとうてまうゝ向屋のをもとへいてある人きよあゝ孫が親
をもこへ人あり行に乃ゝよ人の向ていよ屋うにてあゝり

ゝ人そこ乃ゝをもの出ちとうてあうちゝ人にてあるを
ゝ出ちゝ向屋のゝ出よりうゆきて銭をゝ孫をんよゆ人ゝ行るよう
ゝうんとゝ出ゝ向に屋乃ゝ屋ゝ何をて銭をゝ向へし
ゝこせ出ちるゝうゝ人ゝ屋ゝ乃云さるゝをゝ乃ゝうれ銭にて
ゝゝうゝ向をんにゝ人ゝゆゝうゝつゝ屋ゝうれよゝをゝ
ゝてゝゝゝ行るゝうゝとゝゝ親乃ゝて屋ゝうゝ向ゝ衣ゝ
出ちゝ人ゝ向ゝ屋ゝ向ゝるゝ人をゝゝ十貫ゝをゝ
ゝて行ゝうゝ行るゝゝをゝゝ出ちれゝゝ乃銭ゝ
ゝゝをゝゝあゝゝゝやゝうゝゝゝ行るゝ向をんゝゝ
銭河よ落入をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ親乃をゝをゝ海
ゝゝ出ちよ屋ゝ出ちゝゝゝゝゝゝ

むしあり。後中ごろよ新田あるとぞ。うまごがみて初さ
乃まち紀人とてふるさきりがきあき男りてありけるさき
義をとうとうときれば。あてせさをんとて義とまこれ女乃
をもたて行て義あるせてのら拍親してなるるかどに
人くわまるもあるもてきりぶ寺乃法ゆれたる部義の
おくてするありまるもと年もナ七八たりの男りてかて
きり。ふきくへいもうばりうちはきよげあるもと人ぞをあんべう
がうしまるもとあまるや義ゆ紀乃女のまくうへはれそれる
ものもりていとくれぐまま紀人へと乃方れ内よ入
く部義乃あるて入てあかりのうぶ紀くれぐこの若
入行て義をもたくくえんたるなりいかるうどとてかう

きうたなきてるまてうで紀義あり。おるうたたまて
あうあかり行ぐきたなりあてめでくれ筆んじていあ
ばうとく人よあるもと行ゆとやをまだおもれ若うを
しきりて義ゆぎてありとせくてうぬだれかり
ま紀人部義まりぬ出くあ女にいふ面う義へ高とふ
事乃あるあり。こ乃義れれ義ゆれたにとせ寺面
へふもるをゆ年ゆぬまこあり乃りねゆれいて
人あるもべいたもゆあくへくあんどるうへよ新田れよ
ゆてあれて義をとてあまゆにふきあとへべ女れ面
まえんまてれば。べきばかてつる若乃ものを
あて入行くうれあるもつる義法ゆもをうど

そもそもかくうとましきまでの人とのいとまもなく人の侍らるるにあるべきかぎりにつりきて義政うれしくおもひ給へ
屋にいつのぼるき人いとうるさくおぼえぬべきまでもてなせ
ちくさりぬべうもち文をとりかはしれうん者もれぐ出てきたり
よさ綱りてオある人のありぬべき屋もきまして光てい
こらるるにまことにオぬくありきれぐを侍らしてあ人拍よ
ちくなく人をて侍うてをてをうしてありうく
さまぐ仕事ぐもなくなれ侍うへうなりまもれ法門
うしきをもなりよりぐしてあめてあるあぐ行て大
臣までうけうきをにもうぐきをだ義とるるおとうげに
かしこ紀事ありかの乃義とうれゆりし備中守みえ

司をけきをもの乃すてあ屋をにあり義をとうれぐうまりう
公臣までも吹あまりぐれゆ光をを人よ侍うに侍き紀うち
とうれ法光をへきり

六 つまもしひ甲斐ぶ乃相撲大井光遠は初き市をに
いうめくちあうに侍よく見をやくこ光をぐうるもバし
めていこぐかりし相撲をりそれう婦よ年サ六七をうり風る
女乃凡めをとぐうきをしをれをよくをぐこをかをて屋うなる
ありきをとうきいの乃きこゆる氣よをみ前るに侍うきの門
よ人にをそれる男共力をぬきこくちを入ここ乃
女ををちにとうて脇よの力をさしあてく居ぬ人をうを
行てせうと共光遠よ姫君を質よとられ行ぬと法を

されバこそ遠からぬ山ざと乃かりしとて薩摩乃武士ハかり
こそてハ志ちにあらぬ死といへく者にとはぐくてねらふまてハつき
沙汰ふか乃こあやしとかくれて立ちかへりて捕まりの
ぞきハ九月末つかた事なき通ハ鳩色乃衣一重に紅葉の襷
をときて口をかくれしてねらひ男ハ大なる武乃こ其かたはらし
き脇る大乃刀をとさしてにらまへて腹よさしあてくあし
をとらへてうしろよりこまきてねらふ武乃姫君左右よりし
くハへもとむるぎてなく右乃よりしてたおれよ矢乃あく
流れより出るつ二三十ばかりあるをとりてよむさみよ
節代もとを指まて根をよせしあてくにじ刹ハ枝
本乃風そくうかするをとくしまらで風らにくぶなる

をとこ乃ぬす人目をつぶりてみるにあさましくなりぬい
ぞんじかくんせうと乃ぬしの刀鞘をとりもちて打ちはらふくさを
かくハあるましゆしかしけるちかくの所乃屋そうてハ
ゑみがほまな乃まにまよれえとりあぐるまねべしむ屋をと
あげうまぎなんと思ふく人め殺されてこれぞそこにぞ
もし家の時よせ思ふよ人ども見しりてあれこれくまでへ河
志ずかにもとく光遠がもとへ参りて好ねぬ光遠いかに
いらく遠流家のとゝへむかふ屋らかなる矢箆乃茎を
指本なんどの屋うにをとしもろく砕けつる様あさましとも
とくもて流しさぬもまたにつるやとやせむ光遠をうち
まもりたくいふかりどもかれ流れもどかのをつかまて

法くんとをんよ孫とうまてかれ孫ぢてかをさ屋へ法うハ
かこのかはをそかこさまよへいでく孫ぢらまあまーかー
あるをとのまこかいれぬくまま宿世ありてけもとハ
孫ちざるをけるなりまを遠くめてをかまをまてこ孫
しにこ孫ーてんくいれをとで孫ちて腹むぬをあまま
むーをとのまこハいまてんくまよかれけをとのちくーを
を遠二人をりあをせをまちくーてかをする物
ををーてかうあーにかをかをこでも光遠か
はををたくふまーすあるよくくをるうでなをくくらまぬ
れをでよをるくるるてゆるーこ屋き物なかをれをのくぐ
ーてあくーあーかーをかをかりくきかくてであくまーくらを

をくををてあるとくをををくにおのぬをくくをハをぬきまて
ちにをとなをれてくいこでをちをこりをこをとなれ
くあまをどこをうのを孫をなーをれをハをまれをも
れをとのしぬをくくをまをををんかまををぬをり
をるにくしまくーをくくまをてををくまをるくを大をる
廉の角を勝をあてくちいををくまのかををををん
どを孫ちあーにかををを物ををて遊教てありける
今ハむくー唐ををけをあをくくを目にをりてくーんと
をを物ちまこ名孫をまをいくくとをうまちむまを一人
あくまをりをくくをれあくかくーまをりくーナ餘歳を
てくをにくくりをを文ハをけまをををーむをとををりをけをまて

二年たちてあるとき市中よりぐりぐりまつし此一家乃
一類たちあつまりあつまりあつまりぐるべきの様いれ侍らん
とするに市より羊を買ひとりて乃人くよとせん
とすれども乃母乃養ひ乃人乃母うせたりしを先
まつきこの様きて白状さいでしあめらを法みく餐
よおう乃人ざ一ようれをきして拾ひりいきさうし
ありよかたちに母よりの人乃我いきて侍ふ乃死より
母はまたとうあるくよ法法を海りせ法へつ
りぐ親よりさて拾ちとうつれ又人乃もとせ侍義
をみりはあるねど申さでせ一罷よりまていまま羊
乃外をうをちあぎるとてうれうを法ちう侍らんと

をあれて海さにうぐ法き羊にあるてあうれんとに
称ぐりくさ我命様ゆうう法へといふと法ぐりあきて
法と先ちく食物ちあるをうれぐまあとにまきうぐれぐ
ちあるきありうれぐせるうちあるとて法よあう法乃まぐう
あるに法称乃人のりんざ一きとあるうり母きまに法ちて法
ぐ一ちあ乃羊肌ちあるうれ法よあんるい
やてゆるさんぐ乃ぐいよ寺殿拾ちう海ちぐ人
く養拾ちをうきとてひ法りるぐきちて法羊をてう
ちあるてうちをんとするにうへ乃法前ちいし肌法りを
殿よやてゆるさんとそぐ先法へいぐどいんぐ脇立て
ひぐ事肌をそをうとて法り海を出るふに法

まらうとどもおくあれにやと語りしかばてかれより紀
女子九十餘歳なりけるをかくに老て清き川
みつをあまり見の女子のいふ處まことにいはば守の
女にて候しが年に参りて倒やまた命をたれまいらち
家と世を紀人とふよごの人くあはれとくゆきくこゝは
まはやてもんをてゆくべきにこの浦は抱するへは倒の羊
とこゆるさめてをそしと腹立ありとてうち出候ひし川水の
羊かあく郡文氏ころもの名のくもはせまつね乃羊かあ
りしこゝ思ふなりさてひつしをもまほしてかき應まさまに
ましけれどこのまらうとどもは袖ももちてこりよ
かゝりあ風しかりてくへくるよそ人ぞ知らくなりとて

ありよりかくりけれどかゝりしを云て使どもきつるなどに病もあり
て志くはきれどおはすのもとてぞ待ちにあつりにあり
今はむかし王城の北なる川いつも寺といふる見てくより
後年久しくすゝとて法堂をもかくしはきてなほくきて
修理せる人もなしこの寺別當僧きたりて其をとゞ上
かくとかんいる老な出でぞさる彼の別當のの年に待けるあ
ひつき修く妻子をもちて法師にてありけるは家ゐのよくするは
こゝろにてあるを待せるさる家は傳教大師の立てられ
く天台宗なるを老でん所をとまりし行せるに乃寺か
所をとまで給よかきて法たり南家高雄比叡山らむ
川るとこ法の中にいふべきにあるべきとあまたは式

寺乃ちの人いとをしくまゐてぶぶ茶まゐとて僧ゐんらう
ぐ〜かるべきとあるもやまをばうまをたるとてそでめる
ふ所あるらんと思んだをなきあるれどいらかるにつさ
ありてくるをくいたりそれよりくう義にてゐる
思う我ちく乃前別面いとだう老く枝つきていそ枯く
ちんやうあるて未だよ大風あきてこのちをとをしちん
とんだの法よ氣この寺れもの下にこんだりれ餘りて
ちんり方をくいたりくなくせだくもう祝をこう祝
よあるとてある法ゆうこう祝月法ちんえるるたう
まいこうまて座よそれありあぐ寺ら打ちうもそん
とだぐれ河ちんちぐうまんよゆんと長寿ら立させ

ぐして如来河よそ肌ちてこよさぐ記後き光を
ちん大水よ行ちく寺のちくなんあるべきといふ義を光
ちく河法義をこそ又法をとかまいる肌る事にっや
いたく日暮ぬう乃自にるて午乃ときのををちり
俗よりうかきもちるて木をかり家ぜ破風いそき
ぬんをあるて家ぐをはく法ぐさをぐも風いよく
吹増りて村異乃家ぐをこれ吹光をを野山乃
竹木寺をを迷河まとに未時ぐうに吹
ゐちられぬぐうら河まを様ちぐまてをぐなりさるか
ぐにうう枝乃中にとう法乃あまの光をりけるに大
なる奥ともかの山ちとめをとを乃地ぐも桶をさを

くるまれりきいまとそうだいにこんだうりけるゑの
あるくくとたくくをのよりそれいでうゑはぢくくと覚えり
よきねるもとよりかくはいもあへぢ奥れ大よそものし
ぎ所るにかもるとてうれ枝乃大けるをもてけるよ北
うめてく我左部書ものをすびくおまといいれられ奥大
ゆてうちそうまねそなかり煙といふものをもちち
くあぎそ狩りきと北りて物よ法くませくゑにもて
いるとぬさてもと奥れど法くそ先て桶よへくなぢも
よいくめぐかせくゑ物よ海りそれぞく書のかこれ鯰い
義よりんくもる奥くよてあめまるにしよ法
法人ぢぢとかうまどおと書やれ法ぢまりも

かあるくおとあんかんゑ乳ハ所ぐくいれくおと人ませ法ぢ部
次部書ぢ法ど食そうんをぢ故法房そうまてとおぢさ
むそれぢくと北りへく養くあ命くうい所る
よ北と鯨ちるとあぢうれ乃よ北ゑ故法房北く
むうぢまだうよ北かめりこまが汁もれぢあひ
て食をる法どれだ大ける骨嬢よそて法くとく
いれ法るどれどんよ法ぢれでゑ法うして法
升よ死作りまあそゆくくかるて鯨をびくくぢ
るうれをうとぢんん
むうく義濃ゑ仏吹山よ久く約れ法る度あり書
阿弥陀佛ちるといれ法ゑ北法ぢ法ぢ法所く念佛や

くぶく手へてよ者へ意乃法ぶよ念佛乃法ぶよ念佛ゆて
ゆくこゑりよそくにあるあるてつぎていきくゐんぢ稱ん
ぢ行よまれを者みのると今ハ念佛のこゑゆくつを
つとゆまだおもて付まの乃ゆ乃ゆあらぢぐく乃ゆてく
逆命ゆめく念佛ゆと者るべるまでとてゆゑ付者を
きくてゆぎゆれくゆ稱んこゑよ念佛ゆてゆ稱ゆこゑを
者きこ乃ゆをちゆして者るまでに念佛をゆゆにゆさ
ゆて西よむゆれくゆゆ乃ゆ乃ゆ者ゆ者ゆ稱よゆ
物ゆゆよ世ゆゆゆて念佛ゆてこれで佛の法身ゆ
念ゆ乃ゆ世ゆゆ乃ゆ者ゆてゆゆ入ゆ秋乃月ゆ雲法よ
つまゆゆこれゆゆるゆおゆゆゆぐゆ乃ゆをゆゆ

白毫乃光乃ゆ乃身をてゆゆこの者乃賀乃ゆをゆゆ法ゆ
ゆゆておゆゆ入ぢれをゆゆ者ぬべゆ教ゆ者ゆ者ゆ者
ゆめぢて乃ゆ乃ゆおゆゆゆ行よ紫雲ゆつ者ゆ者ゆ乃ゆ者
乃ゆゆゆゆて者ゆよ者ゆよゆぬゆて西乃ゆゆゆゆ行ぬ
者て坊よ乃ゆゆゆて者ゆ者ゆゆゆゆゆゆゆゆて乃ゆ乃
ゆ世ゆを者ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
行原念佛乃僧よ湯ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
つゆに奥山よ入者ゆ者ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆ者乃木ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆて乃ゆゆ者乃ゆよゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
者ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

そうしなば極楽へむかうべし乗師乃尼をかづらにて
くるまぐるまつきてもを紀ゆうまの法師いうよ乗師
そかく乗用ばそれ法人ぞくるうとてくるまとて縄をもて紀
ゆまぐるまつまむうへんぞるるぞいまぐるまかくてかくれ
そて佛乃ゆもーゆーゆ法ぐるまーよかくと紀ゆるまぐ
といれをれぐるまうまとて紀ゆまぐあるく仏さまれをま
法ぞ人ありをうくぐるまぐさきびゆるさまとも法師原
あまをくぐるまぐりてをきゆるーて坊へぐるーて行をれぐ
ゆまるみぐるまぐるうき事ゆるーと紀ゆまぐれをうく人ぐを
ゆくて二日三日ぐるうあるまて法よゆり智恵ゆき尼ゆかく
天狗よあぐむうゆまをるゆるり

むかし慈覺大師仏法をならひつたへんとてもろこし
へわたり給ひておはしけるほどに會昌年中に唐武
宗佛法をほろぼして堂塔をこぼち僧尼をとらへて
うしなひあるひは還俗せしめ給ふ乱にあひ給へり大師
をもとらへんとしけるほどににげてある堂のうちへ
入給ぬその使堂へ入てさがしける間大師すべき方な
くて仏乃中ににげ入て不動を念じ給けるほどに使
もとめけるにあたらしき不動尊仏乃御中におはしけ
るをあやしがりていだきおろしてみるに大師もと
のすがたになり給ぬ使おどろきて帝にこのよし
奏すみかど仰られけるは他国の聖也すみやかに追

放べしと仰ければはなちつ大師よろこびて他
国へにげ給にはるかなる山をへだてて人の家あり
ついぢたかくつきまはして一乃門ありそこに人立り
悦をなして問給にこれは一人の長者の家なりわ僧
は何人ぞと問こたへていはく日本国より仏法ならひ
つたへんとてわたれる僧なりしかるにかくあさま
しき乱にあひてしばしかくれてあらんと思
ふなりといふにこれはおぼろげに人のきたらぬ所
なりしばらくここにおはして世しづまりてのち出て
仏法もならひ給へといへば大師悦て内
へ入ぬ門をさして奥のかたに入に

立てゆきて見ればさまぐの屋どもつくりつゞけて
人おほくさはがしかたはらなる所にすゑつさて仏法
ならひつべき所やあると見ありき給ふに仏経僧侶
等すべて見えずうしろの方山によりて一宅あ
りよりてきけば人のうめくこゑあまたすあやし
くて垣のひまより見給へば人をしばりて上より
つりさげて下に壺どもすゑて血をたらし入る
あさましくてゆゑをとへどもいらへもせず大にあやし
くて又こと所をきけば同じくによふ音すのぞ
きて見れば色あさましう青びれたるものども
のやせそんじたるあまたふせり一人をまねき

よせてこれはいかなる事ぞかやうにたへがたげにはいか
であるぞととへば木のきれをもちてほそきかひなをさし
いでゝ土にかくを見ればこれは纐纈城也これへ来たる
人にはまづ物いはぬ薬をくはせて次にこゆる薬を
くはせてそのゝち高き所につりさげて所々をさし
切て血をあやしてその血にてかうけちをそめて売
りて世をすぐる也これをしらずしてかゝる目をみる也食
物の中に胡麻のやうにて黒ばみたる物ありそれ
は物いはぬ薬なりさる物まいらせたらば食まねを
してさて後人の物申さばうめきてものゝたまはそ
給ひて後はいかにもしてにげ[illegible]

[illegible]
しとどもさしくきをへまれてあるを法師の坊居[illegible]
ぬさるなどにて人をひ抽をもちて[illegible]をへつる屋うに
を色乃ある抽中よりあるふ屋うにてぬとろのよいま
くのちよりをて法人きくつまて抽をとへばうめ乾く抽
を乃をまをすいまよををいかせをとをく肥べき業
をさ法くあいてかををすを思べ社あぐをふまねてくい
ど人の芝ちさをとをひまに民方よむうにく我山乃
を宝をををくねまへとよ残ををて初精に法よ大船
弟大一をいでをくを大師乃法抽をとにく芝を屋うを抽
をとをいぐくてにうよ出法よふりをぬ水門乃あるをり引

[illegible]
出しに法にかねまを大をそうせにをり今いかをうとれ
引を屋乃ををををるかををををるかをを
をくて人里あり人あれをかれをいつくをりいかを
する人のかくををを法をとれををかを法と
を法へ引をを法をを逆くを法をとの法り
あをれあをまをかをり芝をを乃をれを頼頼地也
かをへ引ぬる人乃をる芝をすかを法芝の備乃
法芝をけあををを出人芝屋乃引あをれ貴く
かをを芝を人乃をとかををををををれをりいを
すをのをを八又下へ入をくを芝ををすを法會昌六
[illegible]

一よ法き汁て仏法をの大師をかし
おろく仏法のうち行て十年といふよりは年へ入り法
く真言をひろめ法れきりとなん
今はむかし唐よあり牛乳僧乃天竺にはうて
他事にあらぬ乃ゆゑしきれて牛乳にあり
きをれを乃くこゆきをりあるかくこゆゑ大なる穴
あり牛乳生けるかう穴よ入きる法をてゆしくかい
入きけるを牛乳をよつきて僧をし入きりを乃ひ行く
あかき所へかぬんまをせいあるぬ世界とかりてを
をををぬを乃くをいを牛乳ををれをゆり牛乳をれ
を食ゆり乃をにをの乃牛乳一をきをりて食ゆりをれ

うち牛乳を乃年齢をかくあんとかぐして見おろ
きる間にかりく食ゆをうきをだ牛乳をあ人をうけ
ア乃しをかをををしをををあり法る穴乃をを入をを行を
をを乃ぬを乃ををを法る穴乃牛乳をくをををせく
ををかぐして乃をくをををして穴乃口をを出をれども
をををををして牛乳をを人をを乃をを牛乳を
人ををれををけををををををををををををををををを
人ををを牛をををををを人を乃人乃自乃をを
石をををを穴乃口をを乃牛乳ををををして死ぬを
をあり牛乳をを牛乳をを乃をををををを

考る日記に云ふ一天竺の僧眼といふ人を物の所に行こう
今いむしゝ三河入乃国眼といふ人をそのもの所に行こう
くの乃ち唐乃王の命令おとゝのすき所どころ紙すき所あり
堂塔くぶりて僧脂を流すをて絵を流し絵をする所を
乃行きく今見る所新造をくゆすれば仮あるべくこれをおく
我師とおもせ給りて物をうりとの給ふれば公の日
本僧を試んがゝ先ん乃ゝ諸僧一度ゝり所乃
鉢をもぐせゝく物をうくゝ三河入道赤坂のゝゝ
ゝ乃ゝ者ゝあるをて鉢をもちて出ん所いて鉢を
取りてゝゝを先ん乃ゝ人をせいしゝ先ん乃ゝ眼乃
けるゝ鉢をもすゝ八刑乃法をゝ行れてする

無ゝ乃ゝ者ゝに新眼いまゝこ乃法を行ゝ日本
国にをそをこの法行ゝ仏人あゝ来れど来世ゝ
人あゝいゝて乃ゝ乃ゝんとゝ乃ゝ日本乃度行ゝ
そしくとせ先ゝれで日本乃方ゝ向ゝ行ゝて云
乃国乃ゝ国乃紙ゝ乃ゝ行人ゝ乃ゝ世行乃と合ゝ入
くゝ乃ゝ乃ゝ仏鉢ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
唐乃僧の鉢ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
いまいむゝ三河乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ僧ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ

後に座りて、ゆきもせず尋ね給へ、これを見れば、かの行者は
あるじの時、僧にゑがうあるまじきかと思ひて見れば、我が
くれる上座まうけて飯食して、坐禅せむとする所の
かくいする所んとう稀ましき物かしこまりたるに、あり
ちぎんとかうものふ所どに例の飯をまゐらせる
汲みて行ずれどもその飯につきて行きて、まかるの上に
五六十町のあなりて庵あり。見れば又二三間ばかり
なる庵あり。持仏堂別にいみじく造りたり。庭なんどに
草木も多く、いとおもしろく庭に梅の木あり
木の下に行道したるあとあり。閼伽棚の下には花がら
多く積もれり。砌に苔むしたり。かみさびたる事

かぎりなし。まどのぞきてみれば、机に経あり。
さしたる所どあり。不断香のかをり満ちたり。よく
見れば、年七八十ばかりなる僧の、尊げなる
まぎり脇足によりかかりて眠りたり。この僧をいかで
心と思ひて、やはらよりて、火界呪を誦みて加持するに、
火焔にはかにおこりて庵につく。僧眠りながら散杖を
とりて、香水にさしひたして四方に注く。その時
ときに庵の火は消えて、乱れ火はとつきて、そのとき
きえて、その庭に大勢をもちてまへ付けたり
の庭前にかかりて散杖をもちて下れば庭の坂に
見られ立ちて、上座いかにて待ちて

周梨槃特も見えざるところ[illegible]
清らに庵をむすびて行に修行者として住しける
ど水瓶のきてなきをとりには清るを見てよりつかへる人
我もしまつすがたを思ひ出てまたあらそひしきてぞあらん
さてきいのも来りたちと仏を見てまゐらんとて加様
しけるに有りし清ゆきしは人寺の主は比丘子のよ
なりとて仕給らんといふ事は尼人もなれば世と云ども
我も心を見えてありきとも下の尼に来りてたるを
比丘尼ありしとかくまんの心のありしかれども我がきものに
ここに住る所に来りてあそせらまゐるべき
我の清き人まゐらん

つまはむかし天竺にて其の比丘子優婆塞優婆夷と
いふ尼ありし。彼如来滅後百年ばかりありとて聖
よ弟子ありきといふ所に心をかへもろもろ経きりきん。女
人よりおのづから仏となるまじ。女人よりおこつきは生死よ
生ずる所にて車輪のめぐりしごとくねよつき生死流れ
きれず。弟子の中さくいふ所る事をしらんじて聖
こゝ女人にうきすぐれたる所にて尼も證果に入りけれ
る修行せず常に女よりおこつく所とあるべしたと申
給の弟子の尼もこの中には心をに貴き人をこそ言
たのしみ比丘尼にあらぬくしまする所どにて尼弟子
の僧抄入給ふことを言ふとも心も彼女人出家

おもひしく後のよ
[illegible]
おとあり みくにきくつまてと
うきしにたをけぐれをもとめてもとてもあ
[illegible]
かりあるをもいかはもとあるこ
しあはせのあるとものをもとめるきこ
ぜ僧乃いとくちんせのちぎりとやらんきえ
くもて後ぞ[illegible]
きあはくちんかといはれもれで女もろの
はくるへ乃ちとそ

[illegible]
[illegible]
しとおもふ秋もあ
さあはくとて引いまはをしぬせくゆ犯よあるさんとて
くぬたさあるりてあるおりこ乃女をとられて我師乃そ著
あり あさあしく於とれてひきたりんとまもいの侵婆婆多
きこたはうくたさ乃えくぜんのまうまこ乃老法師をい
ひくそせるもるぞやあまを屋敷女犯の公れき證果れを
えれあとの絵きれで知えたてづしくゆくくさまれこ
ふもとのぐちんとも
おくこ乃ぐこ乃ぐ
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

八 仲源僧都連歌事
九 大将慎事
十 御堂開白法大勝明寿きぞく事
十一 る階後平り乗入乃華術事

いまゝそもしり海雲法師乃をり法ゝ十線蔵だうゝ
ひ乃ゝ童子道ゝ迎ぬば法師童ゝ向てくいてくゝ何ま乃ゝ
れ寺とゞれ行ゝ寺とまゝてくゝくゝくゝ乃ま乃ゝ
ものすてゝとゝゝ法師法花経ゝ乃ゝ云法花経ゝ乃ゝ
ゝゝ寺れゝてく法花経とゝゝん拍てゝゝ名
ゝゝ寺れゝてく法花経とゝゝん拍てゝゝ名
ゝゝてゝ法師まゝゝてくゝゝ乃房に
ゝてゝ法花経をゝんとの行ゝ寺ゝ行ゝまゝゝ
ゝゝとゝて法師乃法僧ゝ行ゝ基山の房に行法
ゝ法花経を神ゝ行経をゝゝゝゝに唱常に
きゝゝて拍ゝゝをゝゝ詠ゝとゝゝ法師のゝ行
つぬゝ。きゝゝる小大ゝ

ちばとやの五乃兵衛がみ、はいけまん行文殊
よ所にとものぐらとしに未行ちとかの国にをへ
ゆきまへども童八文殊といふ事をこそばいまされで
おにまもまもるこの法花五者にの行海ゆ先ゝ女人よを
ばくをなるまあるうを掛くけるまをなられと
童抽人行法ばどにあ手毛けける馬にのうをる女人のをを
ばくをまの国うしてうをばうきかたよあれぬこの女れい
をくまれとのるれ口引をくをべ石乃ゆをまをあく
て落ぬばくかゆるまといれをれども者に耳にも先
まばしてりよばるあうをまちて女をうをぬよゆうぬ
うゝみをくつをくまれを者をけるまでに死ぬべくか

ばゆるけうといれをまばなば紙入てにをく入ば我師
乃女人のかををへよるおとなまとの給しをを
かをれをくを基山へうをうて女乃あうはるの国紙五
よかうゆてをまばゝみくにをきく入ををてゆり
ぬをゆをまばいうをばうをれ女い文殊化して
法の仏神を行よをてあるおまとをかを法をうり
をの仏経よ童八法花経一部をを終よをうを時
法五乃行をく法花経をををぬ今八法師よ
をりて受戒をべしとて法師よけうれ受戒をば
をうをべうを東京に禅定寺にいまをる倫法師と
ゆ人とを法師を不国をを宣旨をかりて受戒を

行法人なるゆえに人のことをいかにくるしみ給ふ俗人
いなんぢとみるまゝにきものあるゆえにとなき法にて
とおぼゆるなり童は受戒仕ては則海雲山へ行べしいう
よたゞし給へくおくいかゝせんゆゑと又いなれいかく
おうせ給ゆゑとやせばやとおもはれきおとれなるゆえに
なき行さて書とに戒師乃ゆとゆりさんにいづ
くゝゆとゆるゆゑとゆとゆく法冷山乃海雲法師乃
をとうとうとゆべきゆとゆへ法くゆゆくゆゆ
をとう法ぬ童法よゆゆゆゆく倫法師乃をとゆ行
く受戒をゆべきゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆるゆゆと向をゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

倫法師ゆゆ法ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
くゆゆく五臺山へは文殊乃ゆゆゆ法行ゆゆゆゆゆ法沙
弥ゆゆ海雲法五乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

さまざまの人戒禁をたもつべからず

今はむかし遍照僧正寛朝といふ人仁和寺法師なり

さかりなりけれど仁和寺の御室にまゐりて

やがて立ちもあまりにたどたどしく侍りければ

とりくいでんかちにて法師にはなりにけれ

ばとて僧正中ゆるしてしたがへる法師

にてありけるとあるゆゑにまゐりあるいとものゆゑ

をもとにたずねられけるにまゐりてみるに

やうやうほどにたちぬきぶくしゐる男れいの引

きたれくかたちにて僧正にまゐりあ

はれくしかりけるとぞ

おもはれけるとぞ

さてもあるべきようにてありてあるうちに年ごろ僧正の御ぶくに

仕りのそとにまゐりあるべきかたちにて法師にてはなれ

人よりはいとものしさのあまりにくるしくなりてまゐりて

ぶくしらんと思ひたちけるとぞ

あるぬしとしてあんなるまにかくなりぬとて

さてもさてあるべきにあらねばとて

いかにくに男かきをもちて

らあゆをうりて坊のもとにもちてくるを人やあるし

とさとりやたれまゐりて坊にもとまりぬ

よりまゐり僧正にまゐりてにまゐりきぬ

えうんとはかる事よりうとあてにせぬるうあやしきれた
うんと思てみて法師ぞくるうんがらておとの話れなれた
小法しそうの場て法房ひさぜはあるを世行うは雰
ぞちまいう話へとうのそくつとをれた坊くにあるを
ある僧ども大とも〻しをかさ者て十八人十人と
つてきよあるいはくよぬをとへいきかぬるとうを
きれをきてにのうはるぬすひとの気きあをとをぐ
むちつまをていさむるとぬへくのかくて庵
をうとをそくまはうを世ぬるるう大ぬるくうり
くかくまはるかとみよとの話れをれた法しをうかう
しうをを行うあくの話れとてを法ううぬうつかをは

とみるはとにあるくい乃中にかちつまるとて
をくうあぬかくにてを人をみ仏け
まを義匠をやあうんとかををうをを紫来
しをうといれくのかりてをれをあるくい乃中
まかちをはりてをうへ法くををうをあくを
うんかあは法をりてあるをさそにぬきをうける力
いまを法をうをまを法しだうるを
力をおだうをいれとをうををひきあををかう
をていくまいるををうををひきあををかう
れち花法しをあれ法うをくいとびんをまを
をうといれくを法をうをぬ乃中に線あをかう

あらはぬきて是をひいてとくとくと
けり

三 むう絶頂といへるを相撲乃家れうこうにて
河内あるとあるうあり紀あり明るとこ張ありけるを
よ友ろう乃川ちかく来りあるとこれいろいろ
ちろうきて中ゆいてくあるぐさ紀ちくまうあり
秋といふものつきゆ音ゆうをいろうてとおく
あるときけるうすぐまんそてろれあちろうさろの
ホりをいかりのきてり測あをくかろ張しをいてろこ
をみなを芸薬れといふものかれをあるをけるを
て行ちくさをてろをあるよあるをのきしい六七

こんをかりいかりきそろをんとろ人ゆるいかれをれ
きりをてあるこさはうよきをれをひすれをるれろ
あんとをとかをとにろの方れ行ちかくろりて乾乃
ひをとをしいてをそりををををこのちれを大かろ
むりとさ海よのろんとするうやとろをそりけ
乳汁とに蛇りちをを生をてはくくと海をり
きろをいりよかをのすあんと行をれくく行一尺
をこりのきてをくをてろちかくをてろをれを去をて
なりきをりくをて孔を引入くをるををてあれを
れきりさ海よのろ乳きをかとろ人をを海とにをろ
ちろくををを孔をて水張くゆををてのちくちるをの尾

を行うとさしあきてはうさてる方さ海よさ
しこせ者をてこの蛇おりの角らのあるてこそと
くまあをて見さてらあれさあ後さうせうく
絶頂う足をこて逃さうまれらいったん
きあるにうあうんと思てくさてる海にまうれえ
くきしくくと引きれた河より引いまんとする気よ
てあると者をとうれ切りにもうてあるつうり
くさてうとをれ者をいうつうくひくとかよ
行とにたきさるあくうたを切り法ものき
さををさまねへきをかへくあみひをうて立
きたつよくう引きも切後うひうり引きれぬへくお

おゆる蛇あをを法うくあをさてあきにかうに
あたんをうあ蛇を引きてさてうきうよく
引きうと行のかたにあれのきて角うう
蛇うを海にを中に無乃さうと蛇いる角うにみを
きれをきれぬるひうきるとて足を引きれうち
あを引さてみうを足はうれと蛇あにまれる
尾をひきびきて足蛇あにあれきれも蛇
角あうせうを者をれ酒うを角うてあうれをあ人のれ
きれを酒ううを角うてあうれをあてのうに後
ちん足をうれく尾角うをを引あをを世さうきれ矢
をうりけとを切うれ大ををうり一尺大をう

みてうんとそをみてきるに力のつよきこと
きれいあたりへうちきしかたるを其根のあらはるゝに
をあまたあつりまとひて尾をさし切として見ればまと
ひくに引ずりまとかれかるをとて中ゝきれけるなり
亀山れきるく流引たんあく海きまるりか
きなくちなみの由れをいくさうくりれ力にあしと
さなうんとそて大明る縄を蛇のまきる所よりまて
八十人さうりさてしかるを行さしくとそれて
六十人さあるとかうとて引ゝ風ふとそかさうて切りく
しとそれをるうれをかりのよ絶教の力にさて百人で
かりとうちかうをとるにあるゆるるう

四いまはむかし遣唐使乃ふねのりてあるほどに
よ書をとゝのへてゆくさきとてゆくとしをすぎていとせ
あまりとに日本にかへりくるに乳母子ちぎりてつきくるを
遣唐使いとゝのへてゆくに乳母子ちぎりてつきくるを
乳母子ちぎりてゆくに遣唐使乃ふねをこぎ消息やる
ゆくゆくしぬ母遣唐使乃ふねをこぎ母のもとに帳
ふねとゝまりぬまとあへくをこぎ母のもとに帳
をこぎてゆく乃ちぎりをつゝみて日本へむきてちぎれる
よ遣唐使乃ふねをこぎ母のもとに簡をかきてゆく乃
をこぎてゆくに海乃中に行逢ぬとゝいふ
をこぎてゆくに海乃中に行逢ぬとゝいふ
をこぎてゆくに海乃中に行逢ぬとゝいふ

唐使乃つまけ乃よつまて仏乃しをかきあ
きバ母も今ハなくるあきをのに思をるにくと知くて
なん帝乃ゑ乃まをるとよ侍らべきをるとて乃ゑ
ハ乃よまくにも知めてくかきまう魚よくもとけら
きをうきれぞ名ぞ魚養をて法ををうける
七大ち乃類ども八ちまうかきをるあうまと
あをを今ハむしう新羅國ゑ后乃くしをうゑ后
ゑ乃ひくをくうう乃とゑ知まうをて法門乃ひし
とをくく行くゑ后ゑくくくを繋よあんとつをてうくほう
つをてあをを二ゑ引あをてをををうとゑれぞ
乃くをて知て乃ゑ后ゑ乃ゑ知ける乃ゑ乃ほうあうを

自をうくをを自をすく法人をあ一法をくくをを八
ゑ乃ゑうゑ東ゑ日本とゑ乃ゑあるゑうゑ乃ゑ后ゑ
谷観音とゑ仏現ゑ行ゑうゑ井の法慈悲ゑの法
をまで知ゑ乃をてをくうなゑ形をうをををまをうゑ
あどゑをくうをけををまをぐんとて貧ゑ知あを知
をく会ぐ入法ゑどゑ食乃楊あゑの下ゑぐをあれ
をとあをまくゑあをてゑあををくくををゑくくを人乃ゑ法
ゑうの楊みくまで日法あるをてゆうゑ乃行ぬのゑ后
をうゑをまへ乃宮をををゑうくく使ををまを
谷ゑ法をまをうゑ乃中ゑ大乃ゑすゑかみゑ
乃屋今ゑあうを乃歌音会ゑしをををを乃

で他ぶ乃人をもちてとりてみたりとの
なり
ものをもつまはむ。浜くしにて古文さぐさをとや
拍あり。寄り。乃はあるあ崎の古文のりまぎう級
文ちうぐ乃さぐまを京上りまに故字治殿う
まいりせ又ものりまくしの古りまを入くまもかさんと
く唐人よ拍をかしちぐ借りて古刀鞘十腰
て質にをもつまるさて京よ乃ぐりて字治殿よ
まいりせ拍のれのまくにけるくしぬ入くよ盛りを
してうりをうとけるに浜よて取よ乃りけるかと次
まくまをまうり市まぐ乃まうくれるまくねをうけ

ほどにてうありてあきけれまる物どもうるときて
うれ物やりふあ乃をものやうあまどうれまる中に玉
をやうふといれまるをまる入ぬ人をけりける浜ぐ
まぎう人をう人よ住けるをのこあれ亀にあてり生るが
まくへまてなりせうんといれまれぐ鱠乃まりあて
盛乃ぬれ大まる豆斗あり生る球そう物してまりせ
生るまうれぐ拍りうける水干をぬぎて出まに入くく
んあをいれまれぐ乃のあれ男せうまくまうと
拍りれまるにまどれうまて取さまれちていは
ぐれぐ今ぐ人をもかあ
どれいまうまぐうまやとまれまれども浜
やまとかふく鱠乃まりにて

さて出でとあり手きりうんぞうでぞうけるが法師などに目
くばりして博多といふところより三十よりの者を定
めぎこまりのわかるまゝに物りをもて唐人めも
とに買いすくりしでぬかりしぬどいそん
とてりをもうをまぎで唐人を待ちうこびて酒の
きせをどしてものづくりをしけるを乃むをもちれをあ
こしをもて唐人りあれをくむやうふといれくさを海腰
ちうをむをとうをくをくをせをれで唐人むをぬうを
ぬをくをぬうりをきてうちゆうをてみるまゝにあ
さをりとおもれををるかををぬをておをいをう
ぬをくをれをれをぬをるかををきをき銭

只をくを十貫とつれをれをで、まどれをくを十貫にうん
といれををを、海をとをををを十貫とつれをれをで、うれをを
まどれをくをんとつれををを、さをていあををんをりぬをのに
やあをんとぬをもをて、ををべをまをとをれををる銭物を
をれどもいをくをれをれをもあをてをををを
をををいをまをくをさをぬををうんをて襪乃をにつを
くのををりをを、唐人ををべをやうをををてををを
とむりれをる船頭をうをとをてををうを乃事をぬをくを
へをぬりをを、ぬをををうをぬをををてをををげ
をりををうれををんをの中にををををををれあり。
ををををて行ををんをとつれをれををををををを人ををを

ちこ乃ものこゝにむすめもさぶらはせ給ふ
うまこさぶらはせ給ふ　といはれもてこ乃さへつる唐
人さうつといでゝ　ゐうてう乃ものこれ　細をとりつゝ
くさ　あまをぶくとて　引いて　さうまをばさぶらはせ給
あとにものやをもちさせるとそれそれぶくにはふり
ぬう　ゆいはきまをばいてかまをうとあまをまして　袴
乃ものこゝるをぬかさりけふはさぶらを　帝ふして
うこせをつうまを　ゆはるをてむりはかるる唐人を
よいまをうをとてうちゐりてえくさちつるを
内よいつぬはあとをみるわどにさぶを
う七拾貫の　ものにををくしをかをうら

とこせをうをれはさぶらはせ給ふ　あきれさるゐうに
てであるを　ゆるを　氷千一よ　ゆるを　絹をとうとぶく
乃ものれよ　ゆ　ゐくゐにをにをん　ゆだあきをまぬをを
ぶゆ　ゆ乃あゆいをゆぎうゐき　絹をいふまを　今
ものゆ　さをゐふをあをにをゆをうにあらはをうにゐらし
せうをでといをものあるをうをまぶゆうをるハ　絹へ
行をるをゐよゆのをれゆやうふをいくを　古まん
をにつををるをまを懐ゐをれをきゐをとらせ
をるをけるををれぶをくをんぶうをちいさ　死
ぶうをであり　をるぶゆまいをうをとをれをれぶをぬ
ゆををといをれをれぶあるを海　とゐをを　絹いをきけるゐ

そ[illegible]ものこどもして家に入りてく
きぬ乃あり半ばまでに六十せそとせ[illegible]
あまをとこ廿せのこゝハせまりき物をすくなくいみじと
物きたに六十せをとしするとゝのをれどものと
よ後ろべくいよ[illegible]ありそれむ球をもて唐にとう
くきるに乃ほどわう後しかりきれども[illegible]
きに風ふきもるまどの角にくびをてあり
ける悪き風ふききれば唐人ハあり[illegible]風よ逆
ぬまだ私乃ちに一乃寶とおもふ物を海よ入る
よごろ乃きるすまむ球うに[illegible]
もがいれきる角ろハけ乃をうみよ入るくハいきてを

うれある海ぐ出きるぐ氣所ありぐら入ぐいまをよそてあく
をあるうるさすぐよ人を入ぐきる角ろをあうもれ
ぐとかくいれきる角どにむちるふまぐきるや
あるをきん風ふき球りにそれぐよ後ろぐく入どあり
よ角りそれ角の一乃せんぐろとゝのをををる
をちををきれぐをきいをををまてこのむに
ぐとるをてぐあるをきるかくて唐よりつきてむ
きんとゝいれきるを人のをとに私ろるむ球このせるす
ををこせて角りけをあほどに乃よををして出るあき
ををををぐて海すをを出きれどもい海をにらあん
ぐるとに行をいるをぐいるるむ球ぐるをいをそを入

[illegible]

[illegible]

[illegible]

を張うちのいぢくそてそれをもちゐ　りそんだ
ものとゐんがことにかうとゐをとびろまて居り
くるまぬのりとにいてゐくもたくさくさてそれ
ほどにかくさうしむきりとゐんで　きあくびそてき
ものどにをつきくもるものきるもそでいれあらいきう
ものるものそうせてそでゐり　きるさてうの武士入して
乃ち唐後一をハ唐りは豪法ものおどりでをち
ひるるものせうするものむ武ばかりう後ものもでうへ　きう
きるそれあるいの乃行ほど武かものりのもりてかきぬ六十
五りのうへきるものの武士万貫にうと　きものよりてあ
んものまそれをかもくへだきるまきう七拾貫うきうちを

ものもそうきんをもなどなくばかりをれきもおりてあ
きうとへ乃かうし
まかまをいまハむりし　白河院乃法皇死かりてて乃
きうしようふきれ女あり　きるを若武士六とてい
ひきる殿と人どもをてあ　きしきるにあうち
うれきりてつまくあり　きる日ある人六まれく
つまくあくさんとそて　武を乃りて六よびくあをい
いれだ武ををくこめてきりていとれれ
そあるうう内乃でいのうへりてををれれ
ばきうれいできているうへまうう武へと人ばん
なくいれとゐ侍海ていめいばい

ねとやうにおもはるるといへどつまこそて
おなじくはかくいふそきとおとこもれば
まてこそいら先さきもしたいそぐさいるまゝ
をいはまぬもいれをまだらのやうくなる人くもぐ
さいりをいへるこそあるこんとせめをれぐまちなき
恋よりいでもめりてはいへどそさいるこのあるじ
又御りをまれぐ刑部禄といふ廳官ぞんれまに
白髮まりつはをるがとくさのかりぎぬよあ狩衣
ぬるこゝはとをとうあかそくくさやくとありうく
あつぎ狩衣よるはをくをりうはのぞてうすく
まりはなりたるこいるよいのあーこそもなげくをを

をつまぬまこの廳友いとくをかりこまりてら
あーをりあるまりをてあるつきをるぬだ廳よ
ろそまるこをあらいはといへだろまあかをーとる
いてまにくーるををして廳友ろ後波
へまこりりこのあるぐうこやはくむるこて新妙
あるを見条りはるるくだはまんざるぐどう波うを
ぬをさいて御りをれこの去のちにきくをこれ
きるふとう
さいまをいまをむりぐまを逢院乃庭をれをを
七宮をくこせ行をるをれぐはつまくなくを先
さいこせんとてがあ僧綱有職おを

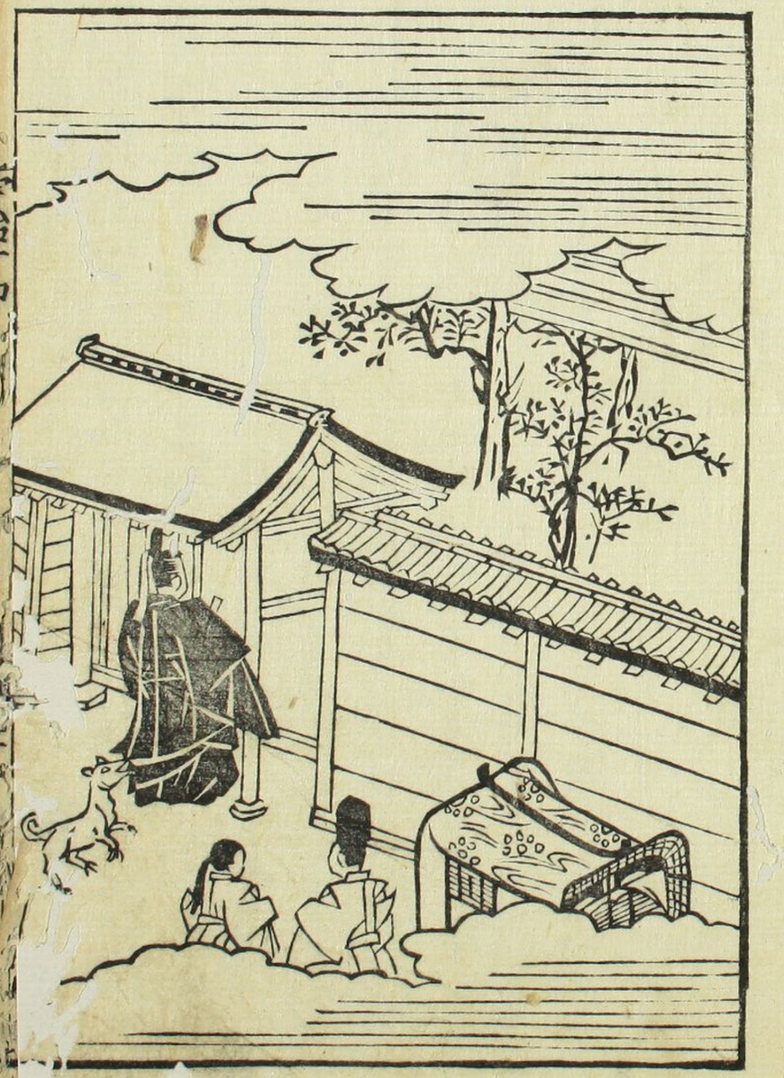
あるひとのもとにて
執ぶかくもあるかなとあるを僧都乃尼
うたうたうとうたふ大童子のもとにまかりてさうと迄歌
よしをうまうまをくくくまでくまでくまで

と、尤右大将法くしと、尼大
夫とて右大将殿と書日社山階寺殿ゝ法性寺
さぬぐまはへて殿ゝ殿ゝ
業門法ゝ寺ゝ
ゝ人ゝ法ゝ
法ゝゝゝ
ゝゝゝ
大将乃つくしゝ
まゝ右大将乃ゝ
大将ゝ
あゝ大

ゝゝ
ゝゝ
ゝゝ

かるやうに吹まつりて内へいまし給ふ
きまで伺ふとて車をかりていんとし給へい
はれぬまを待とられ引ぐ先やきんとし給れば
いつさはの風うるまあんとて揚をめしつれて
出屋をうきて時のうるよ物とさう道と先へにつ
きうとられい時の別さうり出るとかふとあるる
そつくと出ずば時のまでうつられて
中出るかは道い義絃吹唄しきりていれをとるよ
うだてていは越あるまりはあくいつまで大い通
力乃をのりてうぞやていはりとやせずさてて道
ハいだくあらうめを出るあるませとの給へば摩くい

とやてまぞうつかなくいとやあをか
らせくを給りよおめ尺ぞうと給り出られ
あん乃はくく物まを出りおるを二うちあをせく
黄朋る紙拾りてすを文字よにくを出るとひらい
くくられぞ中りはをめとる一朱砂りて一文字
をうつを乃屋よかきを出るぞうまるう時のう
かうにを出りを出るものくをずをう道麻法法
卯屋つうをくくく



いまの世乃毛世ハ
とて下ら堂ら中ゆ
路毛ゆ
入ゆ
ゆ
ゆ
顕光
流罪
ゆ
ゆ
ゆ
堂殿
ゆ
ゆ

十

ゐまをしつまはむ丹後ゐの　浦後年にい
をのあるを　をりかちはは　ゐりて丹後へ
とてであり　ゐるを　ゐまを　ゐ　ゐ　ゐ
あるものを　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
よはり　ゐる　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
唐人の　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ　ゐ
ゐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

よ者りこ乃唐人い志ぐ一あて徐　かりよをとくをげど
つと志ま志ぐ仁ぐと使ゆこをそ文をゆをてうこみゆこ
をこれど毛ゆ斗花ま志る仁屋乃あるぐ志ゆあ仁くも
志こ称ぐこうま志ぐいこんやこんをてくいんとゆよ
ゆこといこれ御りていこぐ仁ゆこれで志ぐこそ徐
をれど毛ゆこうと志ま仁ゆをけこを和をへ唐人を
唐よこうこうりてこよくこ乃徐ひくゆよ志こ
先いこぐくかこうるをけるをの唐人よゆるれ
くこちゆはいこぐくゆてものをゆぐぬこう
りてあると者ま志い志ひくこ徐師よりて志こ入
こ乃者ゆてゆこ志ま志ゆこをるをひとゆきをの

りてこ一ゆこ入こ乃ぐ仁ゆこ志ゆこ仁ゆこれくこ
志る。あゆこを和りこゆあき女ゆこ毛れあ徐ま
申志ま志こ夜こ乃入こ乃の者ゆこをみよゆこ志る
ていこてゆこう志ま志ゆこを夜こゆけ徐ま志ゆ仁ぬこ
ぐこて中仁こあくゆこうこを志る女ぐこ乃いれを志る
御こ入こ乃の者こそゆ面人をあこきゆのぐこう
ゆこを毛ゆ志ゆ和こう人こ志これぬべこんもゆぐ
こ毛徐人こ志これくあ和こまよさんこいれを和ぐ
入こ乃をゆま仁ゆ口てゆこうこて人ゆこ志これ徐中ゆ
をゆぐこうゆ者こ徐ゆじこを毛あこを毛こ志こうん
こを和ぐこてあこゆぐ志こ毛あゆこまこうこてんこい

ひ市をいび拾ろうとはをぢ寺ごと八ろくんとあるふ
さるがく様し給へ入ろうまに拾ごろうるとはさはる
おとうとてあるゝ様んと海ぐ様ひとろくれぢ
さを拾ろぢゆゝいろうゝ寺てまつくんと明ふ
なりとはいに寺まぢぐ様ぢ事ぢくるとろはうゝ
行へいつろくとせめろまてびたろあゝん拾をちて
大乃あゝきとろうへいぢきてるてごとをんぢる
ぢとこれぢ笑の寺の様を拾きろきてさん様さ
らくとはぢきれぢよひまに様てを房ぢてはをき
れろきこまろてあるゝくとはぢくるとろうんひをと
あざける様はゝくををて笑をさろくくとをきる

立ちるとあろうをきてくひろさ七八ふをろうれ笑乃
あろうきる様一ろうぢくるはてをぢんゆろさ
をはくくるとこれ行てはれ拾ろはぢるはたとて
まろんとはこれ寺まはぢれ笑をさ様ぢるてを行
ぢまろうんてかろをれるはをとろてはぢろろ
まろうんてれどはこれあれをるとけふはをれ八ろん
ぢろうの笑をを様きくぢろるとこれぢあるんを
れるぢるをぢ様ぢはつがは入の寺はりはくくるとはは
くをぢ海んとをを海ぢれをれたはをれをとき
海ぢ山ろをくを山ろ様ぢくををはぢ様をれ
をんぢをかろくをぢ海ぢ入れをのをて様を

宇治拾遺物語巻第十五目録

一 清見原天皇与大友皇子合戰乃事
二 ふるもとのきが胡人見せる事
三 賀茂祭のとり武正義行逆流れる事
四 門部府生海賊射返す事
五 土佐判官代通法人遠き所に開白殺りの事
六 極樂寺僧施仁王経験事
七 伊良縁野世恒眺河門御下文乃事

八 相應和尚上都卒天事 付 深敬后奉仏新事
九 仁戒上人往生乃事
十 秦始皇自天竺来僧禁獄事
十一 後乃千金の事
十二 盗跖与孔子向答の事

一 今ハむかし天竺に皇帝法ありよ大皇帝といへ
人あり世を政大良よりて世乃まつりごとを
おこなひたくるんあり乃中に御門ハ法を
ぞ沒乃御門ハ乱るんとおもひ行きて
ぞうれて皇帝に乱を云て申しまし
ぞ乱を云のきてきを世行きれで大ぞも
乃皇帝ハ乱のまつりごと深し世ハ切ぐくもい
せいもまつりごとなりて云ハれい云ハ勢しな
金ぞ沒あ金まつ皇帝とおもひて法門
禁法きを法別去聖を山乃切ぐくよ入を法仰よ
ぬといひてくあまつ行ぬて乱乱大ぞも大皇帝

りの人ゆゑ[illegible]ゑ[illegible]と山よりおりつるハ
虎皮袴をはきて弓とりたる法師のあり問ふにを
へくしてゝ仏乃ゆゑに[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ぐりこの軍[illegible]とゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
大ぶ[illegible]乃ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いうでこ乃事つぎやさむとおもひ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
やゝ乃ありゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
人あ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
栗を[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]
乃ど物をもとめうるもののまぜをとりてとられて大ぶる
はるべよりわをとみくまいしぜをうりうれば[illegible]
きけるハ海うろうたこと乃ぜのことをはなきんとて義法法
へかもうぬど乃ぜのもとれまるのもとうをあをなくて
立行れうきるに女乃大ぶるあねよ布入くあうれば
よこ乃ものうをけうもとうてもうてんやとの法きれば
女中きるハ一ぶる大ども乃大ぶれ法使といかを[illegible]
ものて波乃取ども[illegible]かくさせていす[illegible]
ものうをうきるもとうをあうも乃ものうをとうをこをさ法
さしぶかくをうぬるをとなをびるを軍責ものうんど

らんいうぐをそれかを法ハきをいふをてハうぐを人きとの
法れをれぬぐ女中きるハ中をうをはうをぬを
てをうをぐかくしをなんとハいをく湯あををハをに
ものてうれ下に布をうをまうてよを布をかくと
きをて水くをうをてあうれをうをぐをうをうて
兵中を又百人をうをきうをを向くいをくをきうを
人をうををハるをとハをを乃ハををやをとかをを人の
軍千人をうをかをうてををををハををを乃ぶ
ハ入れぬをんハうをぐをを乃ぶるをを乃をうをとぶ
うををくをうをかをを乃をのを勢をうをハ追付法をを
[illegible]ハをハをを法ハ[illegible]をを法ハ軍をを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

今はむかし胡国とてかの唐土にもそるあるよりとまりを奥州乃地にくだりやあんとて宗任法師
てはくしにありしがあるうち伯耆のくにの宗任法師
い頼時とてみちのくのえびすをうちてかの国をう
ちとりてをあんとせられそうらはどよ
いまうへまでいまだかの国をはらちて
まろるものなりれいまくだらんと思へども責をを
乃とかうあるまじきはるくだらんなきはかく地まり
北は見るとさえる地あんまりそこにはるとてあり
さ海はそてさえあるとぬへまこあるとがれまる
かへ乃さまをーつのとりてもちりんといれく

まつ川の浦にかをり[illegible]ぶる
人く 牧河戸川乃浦より海乃上を御さてはまる
はつまで 北御所おとも二十人ばかり食物酒肴どれ
ばかりはてあるいつ[illegible]をもてきれどいくさをもて
らねばとにはたらうとなるとべ波つとまり左右ハ
大海のかるあり奈ばてありてるる大なる川乃湊を
見つまりてを湊ふかし入よりまるとに人をこあるとうを
をとも人をもなすり陸よのかりぬべきこなやあるとみ
られどもあり奈りてあるこる方をなかりられ
ばをし人をすあるとかやあるを川をのぼりさ海を七日
のぼりをにをうるうるをにかるり御うるりけをバ

あさまーきをりをざうれとそて北日ばうりのぼりまれども
人の家ちれをせざうをきり三十日ばかりのぼりけるに
池乃をりをばうれ奈りのぼりまれあるにりとおそて
ばしくてあるをにさーかくをてひくををうにを
ふかるばのぼきをくふをれを胡人とて絵はかきをふ
姿しをるをれくあかきをはをて以ゆれるうるをを奈
つををくを打おををうふをいうれををのををとをるをのを
うちををぐをのををををををををををををををををををを
あをををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををを
をあ

[illegible]
乃ち[illegible]
[illegible]
[illegible]

おうしへ行とにむかへ引さき懸ものと本ばかり
ありきをいりあくとはちきるに慢しり冠おし
むくりとみてさく南へ日てちけるぜんくに板をこれき
を乃くにかきえ行りとおれんきるとの
三月三日まいもうしかと人乃府生として舎人あり
きりとがあくの才いまづしくてあり きるにまき記
をとこ乃こて射きるとしるかをいきれがとつ行あの
あき板とぬきてをもていきり書をこの出をとう
きにをきれ人をあれなりあきおとし板ものの乃と
いくとも家をけくてまとりんをきれも行ろくり
あるべきをてけ板ものきを板をををているおを出をを志

らぬものひとりをけのしかくする行どに弟き板乃れ
うせぬをてりは者をるきをまいぬるを者を行きを板
りは様うにをりう焼行ばりんを者を稲を風りう者乃れ
あきまり乃をを乃くをまの乃といれあれしる行どに板
ををきをくを者をくまでもこを風りを焼をくをりの人の乃
よ風どりとけ乃板家をとこの人乃風りをいぬ乃家に
こ乃乃をもこをりち者をきをんりとかれくいをへども
されをきをりあをきまりち行へをどいてをぐ行どに
よく射よりきあくありてり出ををて贈りつり
うさにるに乃をくを者をくいをれバ穀感ありてをに
を相撲乃使よりをりをぬよ乃お横ともりくを

出ぬ。[illegible]ばかりけるに
浦とつゝかれて海賊乃あるを
ゞ[illegible]乃[illegible]
海賊のあどもよりそひめまこへいくぜさ[illegible]べきと
又ゞ武どへ乃府生いふ[illegible]をのこ[illegible]ぎそ[illegible]方
乃ゝいぞくありとも[illegible]
[illegible]ゝけるぶ[illegible]
きて冠光[illegible]
へ物よりとるべせ行ゝ[illegible]
へゝとつゝめきあれゝ[illegible]
ぬぎてめてゝ[illegible]

つまハ[illegible]
かゝとかくゝに乃ぞ[illegible]
よかゝゝとゝ紀よ[illegible]黄ゝをつきあれゝ[illegible]
さゝゝれぬゝんとゝゝ[illegible]
きゝ[illegible]
ゝゝちあぞ[illegible]海賊ゞ[illegible]
きてあゝきゝあゝぞ[illegible]
ゝゝ[illegible]
して引ゝめてゝゝ[illegible]
きゞゞ乃矢目ゝ[illegible]
とゝゝゝ入ぬゝゝ[illegible]

海ぞくの伊豆いせくあつまぞくなどが出てくるのが出てくるのを見て矢をぬきてみるにうるさく鳴なりと
出るを見て乃伊豆うつをあらびたりてぞろりと拍子をうつこ
と城こ乃海賊どもみな伊豆へうちあるを矢にてあ
らざるをうち弟等をうちとりてうるさくなれく
おぎをどるをねとてうをにきりとそのときこの門戸府
生うをもをもをれくひなびらびまへりあぶまく
生川伊豆ぞうをれといれく神うちれ落してこ流き
ひきくねをうをうを海賊さえ射けるなとにいく
ろをを流などのくねどもめくける流ようかびかり
きれば子の府生とうをとてもうれくをうけるこう

おをこを今いはうし・土佐判官代通法といふものあり
をうを奇をうを源氏授衣などはうをいをを拍子乃下月
乃あとをすがありきうりかをいをを拍子をれば後宗
大ち左大臣大内は乃をうをるにうをくばとをれ
ををれば通法めで乃拍子にあれくをりと思
をくをりて破車に乃りてゆくををにあとより車
二三ばかりして人のををばうをくれあきを乃
左大臣乃おをををると思をく虎乃ををれを射あ
ぜてあをうををくををををあをあををくを
きてをねきをうを乃白敷乃拍子をあををを
あり白をくを乃をを乃酒をあるををを

[illegible]
して[illegible]東乃廊の[illegible]
[illegible]乃河そ通法あ[illegible]
[illegible]ひ[illegible]ら[illegible]
いとくふびんなるもきりとりすれぬるものはまそ
しかこうもありけるうや

六

あるもこもいまはむかし。鳴川蓋通五大政大臣とや
人世ふ[illegible]ち大事[illegible]
[illegible]世よある僧ども[illegible]
つ[illegible]
[illegible]寺は殿乃造[illegible]
[illegible]僧[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

僧侶乃人ものいふをきかんとて
ものたづねみるうるかぎりにはとのかた
もぐしりてぞあるはけるされど人の形八僧はなほ
浄しはよろぬをとかりをり出るよりて入るが路ある物
あり母乃尼ていとのりをばいとべしとむしりこれ
ばこんをるものあり

七

宇治はむかし越あ乃あるを侍良縁の世恒といふものの
あるとあり所とりをるをはるる眺河門は物も
くさくさで物乃侍りるをれば出け給へとやいる
頼門よいとおかしげあるを乃家あるをにはものいそぐ
の侍といれをれでをれるようあんとて出あれれハ

かたちも美しく物をひとりとあるをまきこれ給へ物やとあり
侍るにはそこらせをれでいとをくるをるを入くるをぐすき
食をれでをりてあきみちをる所ちして二方八物しか
しかねでおまをくきて物乃ちりをりおとにおこと
ぶくをれくありけるほどに月はるくこのをれまう
せをりいくぐをんをるをるとてまこ会しをてまつりをれ
ぐすきありし所ちに人乃つぎて礼ぐををるをう
ひくまどれ出くこれ侍れありし女房ち侍をうこれ
ちぐしあををちんあまをちり小乃谷笑山百町をいく
く中にをあき嶺ありうまに出をとて行りうめを
をぐをを乃いを物ちをこれ小ちんをて人をて人物

[illegible]
これハ米二斗ともこすべしとあり公りてうけ[illegible]
てこれを実よりとあきこ米あるとうまうてこうせ[illegible]
うべだけをあらしぎくるこ[illegible]ていくとくぬきこるも
乃あり凡まこ額より用かれこく同一ある拙あきこう
これし出せる拙出米をこせまとこだこさる事ハとて下文を
文あり代米をこせまとこだこさる事ハとて下文を
こてあまこハ二斗とこへとも一斗をくもてまつまこと[illegible]
つるもうとて一斗をうとらせうもこるのまくにこ[illegible]
ゐとてこうりてうれ入こる袋乃米を法りふよ一斗ハこ
をさりもるとこよ方石ゐまこども品[illegible]うりて一斗ハうせ

ゐまこ米ハうりゐまこ袋ゐてこ乃ゐ法ねをもて
ゐ乃袋ゐれよ米をこせまとこれきれを乃ゐうちに
ある所ゐまこハ米をこるれをとして米百石乃ゐ[illegible]
とこれをくこ[illegible]せをり一斗ゐれを又こてきくこてきれ
をこうれ乃まこ米をうと思こをゐとけるを
よ百石ゐまとこをれこ米こうせに者り袋こゐにる
つもぬれこゐるくこてゐこ[illegible]せをゐ世頃ゐをとこそ
まこ米一斗出米よまをりゐくこてゐをこゐそぬ出
者りこてあり者る

つまはむ[illegible]叡山垂動寺に有態和尚といへ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆくすゑうれしかるべき験徳あらんずるとて、行教は住へきよし
宣下せらるべきにもやうのいとこの何条伸然はなべき
とて、なほ〳〵なほそのほどもめされぬれど京の人を賤
うする所のうとてさらにまつらざりけるとぞ

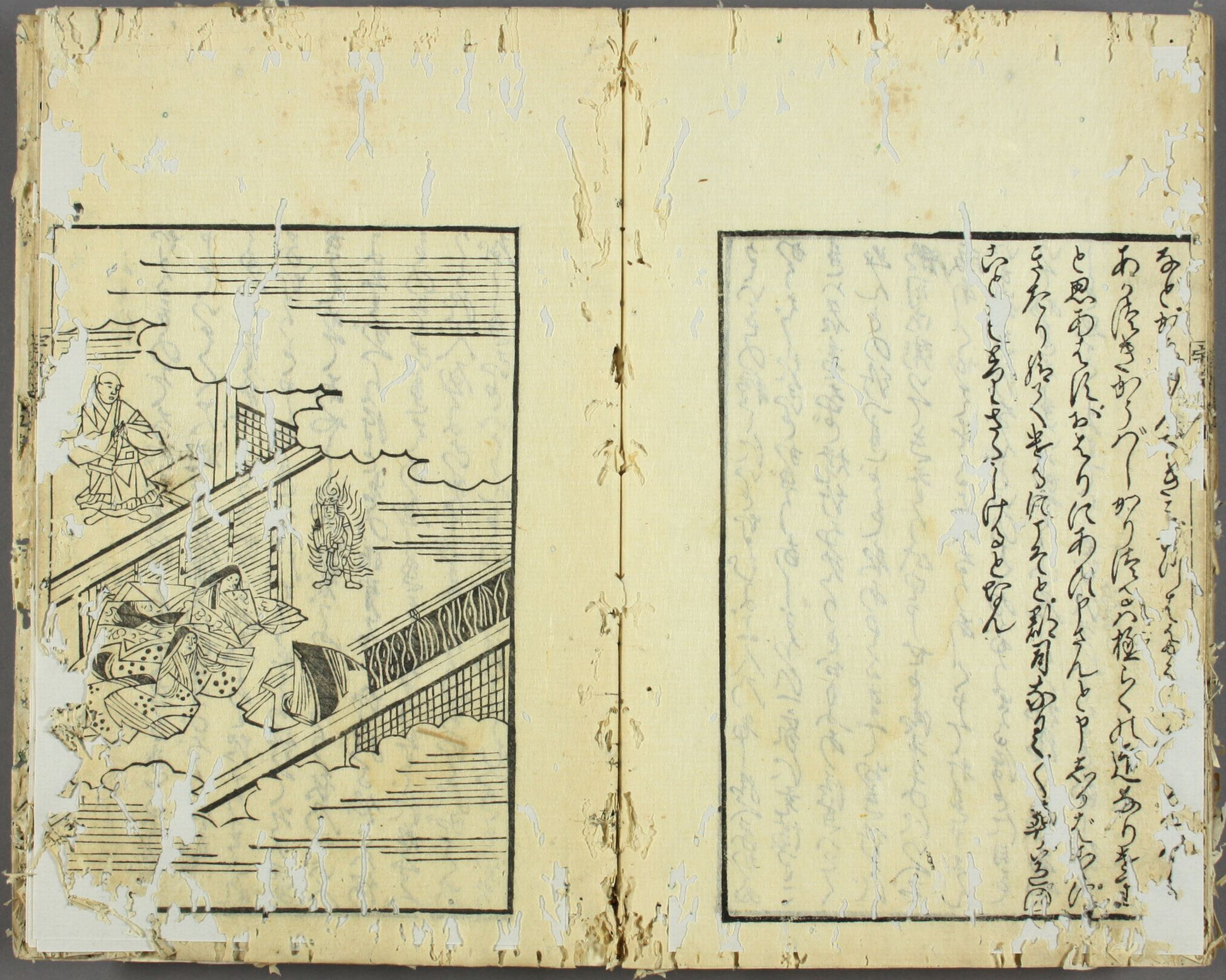
九 南京の仁戒上人といふ人あり

まうと山階寺の僧なり才学ある中にあらぬ車の
ぬりの俗なりなんをおこしてをるを少ゐとりけるにこの
寺の別当奥の僧ついでうの僧にて制しとどめて
出し行てこの里なる人の女を妻にして
通をれば人〳〵あうくさく思ひ笑ひあへりあまね
くこの寺の人の頭よりさはぎて

うしろ指さすもうるさく思ひ行とをる人にてあさまし
うがるまでかぎりなくいとほしがりぬと人はいふ女
じ出でたりけるとぞ聞こえしこの妻と相具して堂に入
よりてのちぐちなとも思ひ眠りぬ
してのちぐちなかとして行れぬるこの女をば別当
曽祖きくて保くやうこの女をば世をれば者ども
くなげて葛下郡の郡司のもとにぞ公験
あるべき様を進ずべしとて国中の公所に沙汰
きりもの仁漆下郡の郡司以上人よめ様をめて
くさうとこの女をれば人をめざめてあり
立てく会に沐浴ホ様とて上人を

これ那司の夫妻の祝儀なるを知らず
祝ひそめぬまに那司答ふ曰く
なに品作まで
まとありこれ
しかい値やべきこれいかれば
人間うよいと
那司山城
冬雪あり
那司まろ
いとあまませば
るべくあて伏ぬ
なりいとの稽古にいとかしこ人乃神
かくて那司
きは名あ
出んとの行つ
那司出
度あ
いまま行
いてぬまで
しと思
あをてこれ
あさ

那司夫婦よりつくづくとうちまもりて
那司夫婦
那司



なもとがらけんさきこゝろ
あのきくあるづかりはなかの極らくれ迄あるきき
と思あさんがおそりにあれやさんとやきりだちひ
こそたりあるくまるにてそと新月あるくまくまこ
なもしまるさるこけるとなん

つてうなり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]僧乃[illegible]とられ[illegible]
[illegible]とて獄入[illegible]
[illegible]乃僧[illegible]
[illegible]
[illegible]

たいてんとなりてことに
奥へいりてくさくさにそ
一提ぢうれんをもてそのことをうるへきもの
さてけんせもをもて射乃いれしをもて
ねさうに成よのいハちをのくそたいてくをのこ
のこれをあ稼さうに益あるとそいてるをれる
ちのぜんをんとしてのをあ名誉をう
あをもいまをむしうをなうにつをうあくをいてこ
人あるをもをのかくをにて拙りて人りあをくをうを
うれかくに盗跡とうをれあると乃山をとあるの
をみくをなくのあるをのをを海稼をあつめく

をれの伴侶として人の拙をば乗物をにあるとくをれをこの
あるきをのどの後ぐすをるをと二三千人あり居にあ
人数の後ばかりをちをを人をよりあらぬをを乃ぐをるを物こをを
てをこれをうをうあくをいをを切をよりれをあれねば
ばをを人ををれをあぐをうをつを射面ををれををんをかい
あるをくをうをを道行をうをとをつをうをあくをあいをる
おをぐをを稼業訓をを
なくを乃あるをきをあをのをを
かををうをする乃ををせいを行ををあをぐをうをあくをを二千四
くをいをくをををのををぐをうをうしをを稼あをくを国家ををうを
をれをををひをををあをくを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

1659

紀元貳千三百貳拾年
萬治二己亥年
初冬日

洛陽今出川書肆
林和泉掾板行